

りつく☆じあ～す×リ
トルアーモリー～誰
の為に引き金を引く～

土居内司令官（陸自ヲタ）

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

20XX年、突如地底から出てきた未知の生命体・マグマ軍によって地表の半分以上が奪われた。

各国軍は奮闘し、自衛隊も何とか主権を維持出来るくらいまで奪還する事に成功していた。

20XZ年、事態は急変する。

突然マグマ軍は兵力を中東アジアへと集め、共産主義テロリスト・アラブ社会主義連盟（ASF）と同盟を結び、中東の大半を占領してしまったのである。

そして、マグマ軍が奪っていった大事な物を奪還する為、自衛隊は国連多国籍軍の一

員として派遣される。その中には、かつて中央混成連隊、即応混成中隊と呼ばれていた「即応機械化中隊」も含まれていた。

* 「りつく☆じあゝす 中央混成連隊、前進す！」の続編です。

* 前作のキャラも出ていますが、設定を変えています。

* 前作同様、ゲームシステムガン無視です。

* 独自解釈が含まれます。

目次

1st	降下準備良し	1
2nd	各個射撃開始	4
3rd	身体に訊くしかないな	
11		
4th	この部屋で聞いた事は他言無用だ	16
5th	厄介だな	20
中東編		
6th	中東の空は俺達に訊けてな	
7th	状況開始	31
		23
15th	何でも揃えるのが私のモツ	
105		
14th	ざつとこんな感じだ	
13th	不能	101
12th	Freeze	94
11th	弾幕を張れ	90
10th	爆弾です	85
9th	撃ちまくれ	78
8th	これより排除する	72
	用語解説	61
	敵対勢力	52
	装備設定	40
	部隊設定	34

		トーですから	109
		16th 戦いは数だよ兄貴	113
		17th 一昨日来やがれってんだ	
118			
		18th バビロン計画	121
125		19th 高濃縮プルトニウム	

1 s t 降下準備よし

中東アジア、アスラール共和国の国境付近――

「1小隊、準備よし！」

「2小隊、準備よし！」

「総員立てえ！ 即機中、降下準備よし！」

その掛け声と共に、機内の簡易ベンチに座っていた全員が立ち上がる。そして、背負ったリュックサックのような何かから伸びるロープを、機内のバーに引っ掛け、引っ張って確認する。

「今回の任務は、捕虜から情報を聞き出して判明した放射線物質を搜索、確保する事だ！ そのためにわざわざ空挺レンジャー資格を取り、そして遠路はるばる中東までやってきた事、危険地帯をわざわざ飛んでもらっている空さんの事を肝に銘じろ！ それでは、地上でまた会おう！」

邀撃戦闘機・F-15MJ イーグルに護衛された、航空自衛隊の大型戦術輸送機・川崎重工 C-2の貨物室の扉が開いた。

地上からは煙が上がっており、ほぼ無風なのが分かる。

「コスモ、コース良し、コース良し、用意用意意！ 降下降下降下！」

機内のランプが赤色から緑色に変わった。

「降下あー！」

そして、貨物室両側の扉から、続々と飛び出していった。

「1小隊、降下確認！」

「2小隊、降下確認！」

「機内良し！ お世話になりました！」

そして、最後の3人が貨物室から飛び出した。

機内に引つ掛けたロープが伸びきり、C—2輸送機からある程度離れた所で背負っていたリュックサックのような何かが開き、自動でスクエア形パラシュート——13式空挺落下傘——が引き出されて展開した。

夕焼け空に、無数の空挺隊員が浮かび、徐々に地上へと降りていく。地面が近くなり、着陸体勢へ。足に括り付けていた、迷彩柄のリュックサック——戦闘背囊——を先に投下、両足を揃える。そして、地面に足が触れた瞬間に重心を後ろへ。でんぐり返りの容量で地面に着地した。

起き上がり、素早くパラシュートを巻いてケースに収める。そして、戦闘背囊を背負い、肩に掛けていたライフルケースから自動小銃——H&K M27IAR——を取り

出し、セレクターを「SAFE」から「AUTO」に回し、作動桿（コッキングハンド）を引いて初弾を薬室（チャンバー）に送り込む。

「中隊集合！ 駆け足！」

防暑服（砂漠迷彩）に防弾チョッキ 3型、88式鉄帽、そして89式5.56mm小銃 2型を携えた男性が叫び、隊員達が集合する。

「我々の目的は、ここから東へ8kmにあるファルジナの奪還及び別動隊との合流、その後カルバーンに突入する！ 坂城2尉率いる1小隊は先行し、狙撃班を潜入させろ！」

2小隊 1分隊もついて行け！ 状況開始！」

2nd 各個射撃開始

豊後水道上空を、3機のヘリコプターが低空飛行していく。

宵の空に溶け込むような、濃い蒼色の洋上迷彩が施されたそれは、海面を掠めるように飛んでいく。

双発ターボシャフトの中型特殊作戦用ヘリコプター——三菱重工 UH-60J II 改 ブラックホーク——は、前方赤外線装置によりぶつかる事無く飛行する。その機内には、自動小銃を携えた女性——否、少女達が乗っていた。

「そろそろだ。降下用意」

1人の、ぼさぼさの茶髪をポニーテールに結った少女が声を出し、一斉に作動桿が引かれた。

数日前——

「い、異動ですか!?!」

「そうだ、坂城2尉」

自衛隊及び国連多国籍軍の連合軍による九州奪還作戦の直前、陸上自衛隊 陸上総隊

中央即応連隊の坂城 大翔（さかき ひろと）2等陸尉はこう言われた。

「貴様の小隊は、半数が病院送りにされていて、満足に戦えるが2個分隊にも満たないからな。そこで、小隊を解散し、使える人材は別隊に異動させる事になった」

「確かに、関東ゲリラ戦の際に小隊は奇襲を受けて——一体、何処に異動なんですか？」

「第18機動旅団 即応機械化中隊 第1小銃小隊だ」

「18旅団って——『関東奪還の英雄』率いる部隊じゃないですか?! 『化け物相手に国際法なんて知ったもんじゃやない』とか言う精鋭部隊に、何で——」

「最適なのがいなかったらしい。それに、『関東奪還の英雄』こと土居内1佐は旅団長になつたからな。即応機械化中隊は別の指揮している」

こうして坂城2尉は、かつて中央混成連隊、即応混成中隊と呼ばれていた即応機械化中隊に配属になったのであった。

UH-60JII改特殊作戦ヘリは、宮崎県 都農に侵入した。

搭載された7・62mm M134ミニガン多銃身機関銃を地表に向けて警戒、ドアを開け、ホイストにロープを掛ける。そして、ロープを手足で挟み、滑り降りていった。着地した彼女達は暗闇に紛れ、消えていった。

「何だって大将姉様がない時にヤポンスキーが攻めてくんのよ!? 空気読めってんだ!」

暗闇の国道を車列が通る。先頭はBRDM—2偵察装甲車、その後ろにZIL—4104高級自動車と2台のUAZ—469多用途車がくっついてた。

そして、ZIL—4104高級自動車の車内では、1体のマグマ軍——日本南西軍副指揮官・カテリーナ少将——が暴れていた。そして、別のマグマ軍——日本南西軍本部親衛隊隊長、ノーナ大佐——が宥める。

「大将殿は関東奪還の為に作戦を立てたのです。その留守を預かるのが我々の任務です」

「分かってんわよそんなぐらい!」

「ビング、マグマ軍の将校ね」

車列を見ていた少女達の内の1人が、双眼鏡から目を離しながら呟いた。

「普通、指揮官の親衛隊は1個戦車小隊と2個歩兵分隊が付くって、あの単眼が言っていないかったか、守山准尉?」

「綾音でいいって言うてるでしょ? 1個歩兵分隊って事は、副指揮官の警護隊かしら?」

「で、姐さん。どうするんで?」

「当然、叩くに決まってるでしょ。国分士長、軽MATで先頭の偵察車を。相浦3曹がバックアップ。鞠亜ちゃんはその黒塗りセダンの運転手を。他の狙撃手はセダンに乗っている護衛を排除。残りはジープもどきを廃車にしなさい。あ、1台は残しといて。軽MAT発射を合図に各個射撃開始！」

それを聞き、部隊は車列を追う。白髪ショート少女は背負っていた歩兵携行型対戦車ミサイル——01式軽対戦車誘導弾（軽MAT）——の保護キャップを全て外し、夜間暗視装置を起動、覗き込んでBRDM—2偵察装甲車に十字型照準線（クロスヘアレクテイカル）を合わせる。攻撃モードをトップアタックモードへ。ミサイルシーカーがターゲットを識別、発射準備が整った。

「1発行きますー！」

少女はそう叫び、引き金を引いた。

発射された対戦車ミサイルは、勢い良く急上昇、ある程度上昇した所で急降下へ。ミサイルシーカーは確実にBRDM—2偵察装甲車を捉え、特攻機の如く飛び込んだ。

タンDEMHEAT（対戦車成形炸薬）弾頭の1段目は砲塔を、2段目は車体を木っ端微塵に吹き飛ばす。

「な何だ!?!」

「奇襲です！ 少将伏せて！ ドライバー、何があつても止まるな！」

黒髪ロング双眼のノーナ大佐が、ホルスターからマカロフPM自動拳銃を引き抜き、運転しているマグマ軍歩兵に指示を出す。

彼らに乗せたZIL-4104高級自動車は一瞬減速するも、直ぐに加速、反対車線に飛び出してBRDM-2偵察装甲車の残骸をかわす。

しかし、ツインテールの少女は自身の唇を舐め、肩に担ぐように構えたM82A2対空／対物狙撃銃の狙いをずらし、引き金を引いた。

強い衝撃と共に、ZIL-4104高級自動車が時計回りにスリップ、田んぼに落ちた。

「くそ、スナイパーか!？」

ノーナ大佐が叫び、床にひっくり返ったカテリーナ少将が泣き喚く。

「冗談じゃないわ! 上官や共産監視委員相手に媚びへつらつてここまでのし上がってきたのよ! ヤポンスキー如きに邪魔されたくないわ!」

スコープの十字型照準線は、ZIL-4104高級自動車の運転席にいるマグマ軍歩兵の頭と重なる。

そして、引き金が引かれた。

分厚い防弾フロントガラスを貫いた弾丸が、マグマ軍歩兵の頭を粉碎し、防弾プレート入りヘッドレストを貫通、防弾リアガラスにめり込んだ。

「アンチマテリアルライフル!？」

ノーナ大佐が驚き、カテリーナ少将が泣き叫ぶ。

「ノーナ! 何とかしなさいよ!」

「当然です、少将」

ノーナ大佐は座席の下から、RPKS—74重小銃を取り出し、80連並列弾倉を装着、作動桿を引いた。

その時、助手席に座っていたマグマ軍歩兵が、迂闊にもドアを開けて外に出た。

「馬鹿! 今外に出たら——」

直後、AKS—74自動小銃を手にしたマグマ軍歩兵は、頭を撃ち抜かれた。

スコープを覗きながら、少女は作動桿を引く。

「ヘッドショット、ヒット。車内に……まだ2人いるな」

ほぼ同時に、2台のUAZ—469多用途車のヘッドライトが狙撃され、辺りは真っ暗闇になる。

数発の銃声により、護衛のマグマ軍歩兵が全滅した。

(この手際、奴らはSOG〔特殊作戦部隊〕か!?)

RPKS—74重小銃を手にしたノーナ大佐は思慮する。

右前輪が何処かへ飛び、田んぼに頭から落ちたZIL—4104高級自動車へ、2人

の少女が近づく。片方はMK18 model自動小銃からMP7A1短機関銃へ、もう片方はMK18 model自動小銃からM500手動散弾銃へと持ち換える。

先台（フォアエンド）をスライドし、初弾を薬室に込める中、MP7A1短機関銃を手にした少女は、開いていた助手席から閃光音響手榴弾（スタングレネード）を投げ込んで離れた。

「!?!」

ノーナ大佐とカテリーナ少将は目を見開く。直後、閃光音響手榴弾は起爆した。

再び2人の少女はZIL-4104高級自動車に近付き、助手席から手を差し込んで後部ドアを開ける。そして、三半規管と目と耳をやられてもがき苦しむ2体をZIL-4104高級自動車から引きずり出し、パラコードで作った縄手錠を両手両足に嵌めた。

「ターゲットを確保。繰り返し、ターゲットを確保」

「了解。撤収するわよ」

すぐにUAZ-469多用途車がやってきて、2人は2体を荷台に載せる。そして、18人の少女達は移動を開始した。

3rd 身体に訊くしかないな

太平洋・鹿児島県沖に展開中、国連多国籍軍 第13機動艦隊旗艦・ワスパ級強襲揚陸艦（ヘサラトガ）へと、1機のMV-22J輸送ヘリが着艦する。

そして、開いた後部ランプロアから、18人の少女達が2体の捕虜を抱えて降りてきた。

「よおし、空いている部屋にぶち込んでけー」

30代辺りの、2型迷彩服を着た男性が指示を出し、少女達は捕虜を連れていく。

その横で、20代後半の男性が見ていた。

「マグマ軍将校か……」

「今までは、下っ端が投降してくるくらいだったからな。一気に情報戦では有利に立たな」

そう言つて、30代の男性自衛官は艦橋へと向かった。20代の男性自衛官——坂城大翔2等陸尉——は、ヘサラトガの艦橋を一瞥し、30代の男性自衛官の後に続いた。

彼、坂城2尉がこの第18旅団 即応機械化中隊 第1小銃小队小隊長に任命され、

早6日。自分と直属の上官——中隊長の須恵原 久路1等陸尉——以外が女性であるというイレギュラーには、まだ慣れそうも無かった。下手な事を言えば、すぐに孤立するのは目に見えている。普通の職場なら、空気が悪くなるだけ——それもそれで地獄だが——だが、命の奪い合いをする自衛官という職種において、それは部隊全体の命取りになる。

せめて全員成人しているか、もしくは自衛隊学校上がりなら良かったのに、と坂城2尉は思う。何故なら、第2小銃小隊の殆どが現役女子高生——予備自衛官特別教育法により、即応予備自衛官扱いされているが——だからである。別隊とはいえ、戦場では強力しあう関係であるし、何より自分の部下だつて高校卒業したての叩き上げが殆どである。

前任の土居内1佐は、一体どういう心境だったのか。元空挺レンジャー故、メンタルは強かつたのだろうか。

先程からそう思慮する坂城2尉は、彼女いない歴11年齢であつた。

やがて、ヘサラトガへへと1機の真つ青なヘリコプター——TH—480練習ヘリ——とUH—1J汎用ヘリが着艦した。

『司令かーん！』

〈サラトガ〉の艦橋から、即応機械化中隊の隊員達が飛び出していく。そして、TH-480練習ヘリから降りてきた自衛官——土居内 佳樹1等陸佐——の周りに集まった。

「さすが旅団長殿。人望が違う」

〈サラトガ〉艦橋から、須惠原1尉が飛行甲板を見下ろしながら言った。

「よほど慕われてたんだなあ……」

〈サラトガ〉飛行甲板にて、坂城2尉がぼそつと呟いた。すると、隣にいた女性——第2小銃小隊 本部班 小隊陸曹代行、クレアⅡFⅡプレストン——が口を開いた。

「まだ来たばかりのあなたには、羨ましく見えるでしょうね」

「別にそんなんじゃない」

「日本ではああいうのを、ハーレムって言うんだっけ？」

「まあそうですけど、俺はそういうの好きじゃないんです」

「現役ピチピチのJKに囲まれるのが？」

「色々突っ込みたい所ですが、高校教師の発言として問題になりますよ」

「若い女に囲まれるのが、男の願望だって聞いたわよ？」

「それがそのまま全員に通用すると思わないでください」

「Ah, gay?」

「違います」

すると、クレアは察した。

「Virgin boy……日本では、Cherry boyだったかしら？」

思わず、坂城2尉は口を噤む。

「……ええ、まあ」

「Yesと取っていいのかしら？」

「そうですよ……」

「別に責めるつもりは無いわ。ただ、くれぐれも変な事はしないようにね」

「警務隊のお世話になるつもりはありませんよ」

その後、土居内1佐と須恵原1尉、坂城2尉、富士の4人は、カテリーナ少将が監禁されている部屋の前にやってきた。

「土居内1佐、お久しぶりです」

M870ブリーチャー手動散弾銃を手にした白根 凜と朝戸 未世が敬礼、土居内1

佐も返す。

「さて、マグマ軍将校とご対面だな」

扉が開き、4人は中に入る。そこには、鎖に繋がられたカテリーナ少将の姿があった。

「お前ら！ 一体何をしているか分かってるのか!? 日本南西軍団司令官の大將姉様の手に掛かれれば、こんな船は一瞬で海底行きだ！ 私を解放すれば、見逃してやる！」

「まーだ威勢がいい」

吠えるカテリーナ少將を見ながら、富士が一言。

そして土居内1佐が口を開く。

「あんたに聞きたい事はただ1つ。全国にある原子力発電所の燃料棒、38本の行方だ」

その言葉に、坂城2尉と富士が驚くが、カテリーナ少將は土居内1佐に唾を飛ばした。

「そんな事、知る訳が無い。大將姉様なら知ってるかもしれないけどね」

土居内1佐はハンカチで顔を拭きながら、カテリーナ少將を見る。

「へえそうかい。だったら……身体に訊くしかないな」

その言葉に、カテリーナ少將はビクツとなり、富士が土居内1佐をジト目で見た。

「市ヶ谷元3佐に言いつけるわよ?」

「冗談です教官。ただ、別の人間に訊いてもらおう」

そう言つて、土居内1佐は手を叩いた。

4 t h この部屋で聞いた事は他言無用だ

日本本土奪還も、関東・中部・東北までである中、ある事が判明していた。

解放した地域にあった原子力発電所——福島第2原子力発電所や女川原子力発電所、浜岡原子力発電所、柏崎刈羽原子力発電所——では、全ての燃料棒が消えていたのである。詰まる所、マグマ軍が略奪したとしか考えられない。

「ほらほら、そろそろ吐いたらどう？」

「ま、待て、そんな所に——~~~~~!？」

自主規制により、音声すら流れません。

数十分後、そこには痙攣しっぱなしのカテリーナ少将の姿があった。

「さすが岬守学園、尋問に容赦が無いな」

土居内一佐がそう言い、紫髪の女子高生が応えた。

「それ程でも」

「礼を言おう。これで大事な事が分かった。くれぐれも、この部屋で聞いた事は他言無

用だ」

「何の事かしら?」

「それでいい」

一方、部屋の外には坂城2尉がいた。

「尋問って……」

「非人道的でなければいいんじゃない? さくらんぼ君には声だけでも刺激が強かった

かしら?」

「富士3——」

「だいたい分かるわよ」

そう言つて、富士が半歩坂城2尉に近付く。すると、坂城2尉は半歩遠ざかる。

「どんなに優秀な指揮官でも、女に慣れていなきや、意味無いじゃない?」

「そりゃ好きでこうなつた訳では——」

「でしょうね。でも、ここじゃそんな言い訳は通らないわ」

そして、TH—480練習ヘリとUH—1J汎用ヘリが飛び立っていった。

強襲揚陸艦〈サラトガ〉は夕陽に照らされ、夕飯の時間になった。

士官食堂へとやってきた坂城2尉と富士は、セルフサービスの食事を装い、同じテー

ブルについた。

「富士3尉、質問しても？」

「いいわ」

そう言つて、富士はハムを箸で挟んだ。

「土居内1佐は、どういう人物だったのです？」

「自分の補佐役に手を出した男」

「いや、それ以外で……」

「根は真面目、でも頭のネジが10本ぐらい吹っ飛んでいる」

「……………」

「レンジャー教育の時だって、教官チームの陣地を攻めるのに、たった4人で正面から陽動、残りを裏の崖から登らせて強襲とかいう無茶な作戦を立案し実行。第1空挺団の時には、たった20人の分隊で400を超える武装勢力と交戦して全員生還。中央混成連隊では、たった2人で敵の要塞に突入して捕虜になる……いつ死んでもおかしくなかつたわ」

「……………」

「その上部下に慕われていると来た。まさに、ライトノベルの主人公級よ。年齢と既婚である事を除けば。あ、アラサーバツイチの主人公が既にいるか」

「俺、何でここに配属されたんですかね……」

「他にいい奴がいなかったのよ。『幹部レンジャー資格を有し、捨てても惜しくなく、小隊長の経験があり、そして頭のネジが吹っ飛んでいる輩』がね」

「頭のネジが吹っ飛んでいるなんて、自覚は無いですか」

「誰だってそうよ。自覚なんてある訳無い」

坂城2尉は、言葉が出なかった。もやもやしたまま、ポテトサラダを口に入れた。

5th 厄介だな

数日後、海上自衛隊 第6護衛隊群旗艦、いずも型ヘリ搭載護衛艦へふそうへ、多目的会議室——

「ここに集まってもらったのは、他でも無い。マグマ軍についてだ」

壇上で、防衛省 統合幕僚長の弥勒田海将が口を開いた。

「現在実行中の九州奪還作戦において、直前になってマグマ軍が撤退する事案が発生した。勿論、畏の可能性もあるため、最善の注意を払って上陸を行っている。だが、航空自衛隊のF-35AJの偵察によると、北海道・近畿・中国・四国でも同様な現象が確認されている。土居内1佐、説明を」

そう言われ、土居内1佐が立ち上がり、壇に上がって説明を始めた。

「先日、第18旅団配下の部隊がマグマ軍将校——本人は、マグマ軍 日本南西軍団 副指揮官と言っていますが——を確保する事に成功しました。適切な尋問を行い、情報を聞き出した所、マグマ軍は日本全国にある核燃料棒を略奪し、中東へ運んでいる事が分かりました」

その言葉に、多目的会議室にいた幹部自衛官達がざわついた。

「もしそうであるならば、日本の沽券に関わる重大な問題だ」

安田 晋介内閣総理大臣が言い、他の大臣達も頷く。

「それ以前に、中東アジアは正規軍にテロ組織、おまけにマグマ軍の三つ巴の乱戦の最中、テロ組織・アラブ社会主義連盟（A S F）とマグマ軍が同盟を結び、中東で主権を維持出来ているのはイスラエル程度と最悪な状態です。世界の殆どは、中東から石油を買えず、アメリカやロシアから購入してやつとの現状です。我が国も、先月自家用車の利用禁止令を出すほど、緊迫した状況です」

小野里防衛大臣がそう言うのと、安田首相は頷いた。そして、口を開く。

「しかし、何故マグマ軍は地上から物資を略奪するんだ？ 地下にはもつとあるだろうに」

すると、経済産業省の職員が手を挙げた。

「これは仮説ですが、マグマ軍には相応の技術力が無いと思われます」

「どういう事だ？」

「マグマ軍が今までに占領した地域には、数多の放射線物質がありました。にもかかわらず、今まで一度も核を使ってこなかった。自衛隊が捕獲したマグマ兵の検体を検査した所、福島第一原子力発電所が爆発した直後の地域を平気で活動出来る耐性が分かっています。使っても問題無いのに、使わなかった。つまり、作る技術力が無いのではない

でしようか?」

今度は、航空自衛隊の幹部自衛官が手を挙げた。

「専門外だからよく分からないのだが、核燃料棒から核兵器を作れるのか?」

「鉱石から作るよりは簡単です。何せ、放射能の濃度が違う。それに、核燃料棒だけでも、『貧者の核兵器』を作る事は楽勝です」

「それは一体?」

「起爆装置の付いた容器に大量の放射能を入れ、起爆すると辺り一面が汚染されるといふものです。核爆発は起きませんが、ガイガーカウンター無しに普通の爆弾テロと区別する事は不可能です」

「厄介だな」

安田首相がそう言い、唸る。

「今、国連——というか、米露でだが——では、中東アジアへの武力介入が検討されている。もしここで日本の核燃料棒が見つければ、国際世論から見放される。何としても、それは避けなければならない」

中東編

6 t h 中東の空は俺達に訊けてな

数ヶ月後、中東アジア イヴァク連邦沖、アメリカ海軍 第12空母打撃群旗艦、フォード級原子力空母へドナルドⅡトランプ、第81洋上攻撃飛行隊ブリーフィングルーム――

「我々の目的は、アスラール共和国及びその周辺一帯を占領した、クソツタレ地底生物とクソツタレ共産主義テロリストを殲滅する事だ。まず我々は南西の制空権を確保、アドレア空軍基地とフラビシル国際空港を叩くストライクパッケージ（戦爆連合）を護衛する。地域は違うが、ロシアや中国、インドもこの作戦に参加している。スホーイやミグを見つけたからって、IFF (Identification of Friend or Foe、敵味方識別装置) を確認せずにぶっ放す事は絶対にするな」

そして、原子力空母へドナルドⅡトランプから、次々とF/A-18E多用途戦闘機が発艦していく。

発艦後、編隊を組み、航空自衛隊のF-15MJ制空戦闘機の編隊と合流した。

〔こちらVF-81、シャークリーダーだ〕

〔210SQ、ムシャリーダーだ。お手柔らかに頼む〕

〔いいで日本人。中東の空は俺達に訊けつてな〕

その時、アメリカ空軍のE-3G早期警戒管制機が呼び掛けた。

〔スカイアイ41よりエコーファイター。エリア・DH2104、方位180へ向け、高速で移動する物体だ。同高度、接触まで6分〕

〔コピー！ マスターアームオン、マスターアームオン！〕

〔ムシャリーダー、コピー。リーダーコンタクト。IFF応答無し、機種を判別しよう——フランクとファルクラム！ 4機ずつだ！〕

〔シャーク02、ロメオコンタクト！ レーダー波を照射された！〕

〔スカイアイ41、コピー。交戦を許可する。繰り返し、交戦を許可する〕

〔シャークリーダー、コピー！ EW(Electronic Warfare、電子戦)開始！ エンゲージ、エンゲージ！〕

12機のF/A-18E多用途戦闘機と16機のF-15MJ制空戦闘機が増槽を切り捨て、チャフを撒きながら旋回、AIM-120 アムラーム中距離空対空ミサイルとAAM-4B中距離空対空ミサイルを発射する。

中距離空対空ミサイルによって、お互いに損害が出る。

そして、マグマ軍の防空戦闘機27号と戦場戦闘機29号とドッグファイトに突入した。

「ムシヤ6、後ろだ！ ブレイク、ブレイク！」

「貫ったぜ！ シヤーク09、FOX2！」

「被弾した！ ムシヤ11、イジエクト！」

少なからず損害を出したものの、作戦空域の制空権を取る事に成功した。

「ストライクパッケージ、こちらファングリーダー。これよりフラビシル国際空港へ攻撃を行う」

「スカイアイ41、コピー。これより指揮管制はE-8 ジョイントスターズに移る。コールサインはトムキヤット22だ」

「ファングリーダー、コピー。トムキヤット22、こちらファングリーダー」

「ファングリーダー、こちらトムキヤット22。感度良好だ」

「トムキヤット22、よろしく頼む」

「任せとけ。地上には、USマリン（アメリカ海兵隊）のFFOP（Forward Fire support Observation Point、前線火力支援観測所）がある。コールサインはピープーだ」

「ファンングリーダー、コピー。ファンングリーダーから各機、HTS（HARM Targeting System、AGM-88 ハーム対リーダーミサイル用照準ポッド）起動、EW準備。網破りの開始だ！」

4機のEA-18G電子戦攻撃機が、ECM（Electronic Counter Measures、電磁妨害）を行いながらフラビシル国際空港へ接近する。

「SAMサイト（地对空ミサイル陣地）を発見した！」

「攻撃許可は下りている。攻撃せよ」

「了解、ハーム発射！」

EA-18G電子戦攻撃機から、続々とAGM-88 ハーム対リーダーミサイルが発射されていく。

そして、続々と命中していった。

「ビンゴ！」

「全く、ステルス戦闘機を投入すりゃ、こんな事やらずに済むのに」

「仕方無いだろう。政治家連中は軍事機密が漏れて自分の首が飛ぶのが怖いんだから。ロシアや中国も同じ考えのようだ」

「それで代わりに兵隊の首が飛ぶってか？ 安月給に長時間労働、おまけに命の保証は無しときたもんだ。やってらんねえぜ」

「得られるのは退役後のささやかな年金と名譽だけでもんな」

「それも貰えるか怪しいもんだ。ま、ここにいるだけで海外派兵勲章は確實だがな」

その時、アメリカ海兵隊のFFOPが何かを見つけた。

「こちらピープー。旅客ターミナルから、滑走路を挟んだ反対側、何か移動している」

「ファングリーダー、コピー。あー、航空機だ。おまけに戦闘機」

「スナイパーを覗くまでもない。あんなド派手なカラーリングはマグマ軍に決まってる」

「ファングリーダー、こちらトムキャット22。A-10、コールサイン・プロウト、F-12A、コールサイン・スネークが待機している。適宜誘導を行え」

「ファングリーダー、コピー。あの見た目は、マグマ軍の戦闘戦闘機29号だな」

「耐爆掩蔽壕に隠れていたのか？」

「いずれにせよ、潰すのに変わりはない。こちらファングリーダー、スネークリーダー、聞こえているか？」

「スネークリーダー、ばっちりだ」

「よし。今、滑走路目掛けてマグマ軍の戦闘戦闘機29号が2機移動中だ。バルカン砲攻撃を要請、レーザーで指示する」

「コピー。スネークリーダーから2、3へ。マグマ軍の戦闘機が移動中だ。機銃で攻撃

する。グラウラーがレーザーで指示するぞ」

〔コピー！ ターゲットインサイト！〕

〔FOX3！〕

そして、2機のF-2A多用途戦闘機が急降下、20mm M61バルカン砲でマグマ軍の戦場戦闘機29號を破壊した。

〔お見事！〕

〔一昨日来やがれてっつんだ！〕

〔ファングリーダー、こちらピープー。駐機場に動きあり——車両だ。4台〕

〔こちらトムキャット22。低空を移動する物体を発見した。速度と大きさから見て、ヘリコプターの可能性がある。なお、IFFに反応は無い〕

〔コピー、確認した。車両4台停止、ヘリも着陸態勢に入っている〕

〔ASFだ！ ASFの連中が、マグマ軍のヘリに乗ろうとしている！〕

〔コピー！ ファングリーダーからプロウリーダー、武装を教えよ！〕

〔こちらプロウリーダー。30mmアヴェンジャーにロケット弾、マーベリックにクラスタ、何でもあるぜ？〕

〔コピー。ロケット砲に対地攻撃を申請、レーザーで目標を指示する〕

〔コピー。プロウ5、任せませ〕

「こちらプロウ5。コピー。任せてください」

「こちらピープ1、ASFの連中がヘリに乗り込んでいく！ヘリを優先して攻撃せよ。こちらのポイントは、GS6318。南東から侵入する際は留意されたし！」

「コピー！ ターゲットインサイト、レディ！」

A-10C対地攻撃機が爆撃侵入、主翼下のハイドラ 70mmロケット弾ポッドからロケット弾を乱射した。

「してやったぜクソツタレ！」

「ブラボーデルタアルファ、ブラボーデルタアルファ(Bombing Damage Assessment、空爆効果評価作業)！ヘリと車両3台の完全破壊を確認！」

「良い腕だ、ブラックキャット」

「ホワイティア、ありがとうございます」

「こちらトムキャット22。空港にアメリカ陸軍が突入する。これ以上の航空攻撃は危険がある」

「こちらフアングリーダー、コピー。野郎共、帰るぞ」

「フアングリーダー、忘れ物があったらどうします？」

「鉄砲屋の戦闘民族が届けてくれるさ。これ以上留まって、ありがたいお言葉を貰いたくはないだろ？」

〔ハハツ、その通りですな〕

〔ファングライダーからスカイアイ41。コール、ロメオタンゴブラボー（Return

To Base、帰投宣言）〕

〔こちらスカイアイ41、コピー。お疲れ〕

〔全くだ。帰ったらビールでも呑むか〕

〔大尉、海の上での飲酒は、恥曝しの刑ですぞ〕

〔ノンアルコールならいいだろうが〕

7 t h 状況開始

中東アジア、アスラール共和国の国境付近――

「1小隊、準備良し！」

「2小隊、準備良し！」

「総員立てえ！ 即機中、降下準備良し！」

その掛け声と共に、機内の簡易ベンチに座っていた全員が立ち上がる。そして、背負ったパラシュートバッグから伸びるロープを、機内のバーに引っ掛け、引っ張って確認する。

「今回の任務は、捕虜から情報を聞き出して判明した放射線物質を搜索、確保する事だ！ そのためにわざわざ空挺レンジャー資格を取り、そして遠路はるばる中東までやってきた事、危険地帯をわざわざ飛んでもらっている空さんの事を肝に銘じろ！ それでは、地上でまた会おう！」

邀撃戦闘機・F-15MJ イーグルに護衛された、航空自衛隊の大型戦術輸送機・川崎重工 C-2の貨物室の扉が開いた。

地上からは、先達のアメリカ海兵隊が煙を上げているのが見え、ほぼ無風なのが分か

る。

「コスモ、コース良し、コース良し、用意用意用意！ 降下降下降下！」

機内のランプが赤色から緑色に変わった。

「降下あ！」

そして、貨物室両側の扉から、続々と隊員達が飛び出していった。輸送機から離れた所で自動でパラシュートが開く、スタティックライン降下だ。

隊員達が全員降りたのを、坂城2尉と第2小銃小隊長の豊崎 和花3等陸尉が確認する。

「1小隊、降下確認！」

「2小隊、降下確認！」

「機内良し！ お世話になりました！」

そして、須恵原1尉と共に貨物室から飛び出した。

機内に引つ掛けたロープが伸びきり、C—2輸送機からある程度離れた所で背負っていたパラシュートバッグが開き、自動で円形パラシュート——13式空挺落下傘——が引き出されて展開した。

夕焼け空に、無数の空挺隊員が浮かび、徐々に地上へと降りていく。地面が近くなり、着陸体勢へ。足に括り付けていた、迷彩柄の戦闘背嚢を先に投下、両足を揃える。そし

て、地面に足が触れた瞬間に重心を後ろへ。でんぐり返りの容量で地面に着地した。

起き上がり、素早くパラシュートを巻いてケースに収める。そして、戦闘背嚢を背負い、肩に掛けていたライフルケースからM27 IAR重小銃を取り出し、セレクターを「SAFE」から「AUTO」に回し、作動桿を引いて初弾を薬室に送り込む。

「中隊集合！ 駆け足！」

防暑服（砂漠迷彩）に防弾チョッキ 3型、88式鉄帽、そして89式5.56mm小銃 2型を携えた須惠原1尉が叫び、隊員達が集合する。

「我々の目的は、ここから東へ8kmにあるファルジナの奪還及び別動隊との合流、その後カルバーンに突入する！ 坂城2尉率いる1小隊は先行し、狙撃班を潜入させろ！」

2小隊 1分隊もついて行け！ 状況開始！」

部隊設定

即応機械化中隊（ゼブラ）

本部班：須惠原1尉、仙台3尉、古河2曹

狙撃班（シュガー）：松本2曹、ヨーコ、マドレーヌ、沢城桐子、沢城昌子、照安鞠

Ⅱ

第1小銃小隊（エーブル）

本部班：坂城2尉、富士3尉、高田3曹

第1分隊

1班：守山准尉、春日井曹長、岐阜3曹、福島士長

2班：習志野1曹、相浦3曹、対馬3曹、国分士長

第2分隊

1班：相馬原准尉、新発田1士、豊川1士、新町1士

2班：朝霞曹長、練馬3曹、富山士長、多賀城士長

第3分隊

1班：健軍1曹、鯖江1曹、湯布院3曹、反町士長

2班：下志津1曹、明野3曹、座間士長、竹松1士
第4分隊

1班：福岡曹長、大村士長、玖珠1士、板妻1士

2班：滝ヶ原准尉、北富士3曹、久居士長、金沢2士

第2小銃小隊（ベーカー）

本部班：豊崎和花3尉、クレアⅡFⅡプレストン、有馬官奈

第1分隊

1班：西部愛、白根凜、椎名六花、蓮屋文奈

2班：宇都宮士長、朝戸未世、豊崎恵那、三田玲美

第2分隊

1班：芙蓉まりこ、小海紗津希、クラリスⅡサンティニ、白野継実

2班：來野未明、大庭瀨菜、志熊海衣、志熊羽衣

第3分隊

1班：小泉樹里、大谷留美、新島早苗、立川理央

2班：都城士長、郡山2士、榮倉ミラ、二ノ方ありす

後方支援班：三宿准尉、大宮2曹、土浦3曹、松戸士長、大泉練、上月ひかり、柏木

朋子、伽鳥杏奈、新井いちこ

- 第1戦車小队（クイーン1）
10式戦車
10式戦車（8tk）
10式戦車（1tk）
10式戦車改
第2戦車小队（クイーン2）
90式戦車
M1A2戦車
Strv122戦車
メルカバMKIV戦車
第3戦車小队（クイーン3）
74式戦車
74式戦車 G型
74式戦車（10tk）
マガフ6B戦車
レオパルドC2A1戦車
第4戦車小队（クイーン4）
：駒門2曹

T-90 戦車

T-72B3 戦車

T-90S 戦車

T-84 戦車

第1機甲偵察隊（イージイ）

87式偵察警戒車

87式偵察警戒車（6tk）

本郷ももこ、百瀬理子

第2機甲偵察隊（フォックス）

89式装甲戦闘車

M3A3 騎兵戦闘車

16式機動戦闘車

16式機動戦闘車（8tk）

第1飛行小队（ヨークル）：目達原1曹

AH-1S 攻撃ヘリ

AH-1S 攻撃ヘリ（4ath）

AH-1S 攻撃ヘリ（3ath）

- AH—1W 攻撃ヘリ
- 第2 飛行小隊(ヨーク2)
- AH—64D 攻撃ヘリ
- AH—64D 攻撃ヘリ(3 a t h)
- PAH—2 攻撃ヘリ
- Mi—28N 攻撃ヘリ
- 第3 飛行小隊(ヨーク3)
- AV—22 強襲ヘリ
- UH—1J 改強襲ヘリ
- 第4 飛行小隊(ヨーク4)
- UH—60JA 汎用ヘリ
- UH—60JII 改特殊作戦ヘリ
- OH—6D 改特殊作戦ヘリ
- 第5 飛行小隊(ヨーク5)
- MV—22J 輸送機
- A/MV—22J 強襲ヘリ
- CH—47JA 輸送ヘリ

第1航空偵察隊(タール)

OH-1改偵察ヘリ(4ath)

OH-1改偵察ヘリ(3ath)

野戦特科班(アスキー)

99式155mm自走榴弾砲

75式155mm自走榴弾砲

74式105mm自走榴弾砲

FH-70 155mm牽引榴弾砲

防空班(キラー)

87式自走高射機関砲

ゲパルト対空戦車

装備設定

坂城 大翔2等陸尉……M271AR重小銃（ACOGスコープ、AN/PEQ—1
6レーザーサイト、タクティカルライト、グリップポッド）、USP自動拳銃（タクティ
カルライト）

富士 御幸3等陸尉……89式5.56mm小銃（M4ドットサイト、タクティカル
ライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

高田 沙織3等陸曹……89式5.56mm小銃（スペクターDRスコープ、AN/
PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルラ
イト）

守山 綾音陸准尉……89式5.56mm小銃 2型（ACOGスコープ、AN/P
EQ—16レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライ
ト）

春日井 樹陸曹長……MINIMI軽機関銃（ACOGスコープ、AN/PEQ—1
6レーザーサイト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

岐阜 歩見3等陸曹……M60E6汎用機関銃（スペクターDRスコープ、AN/P

EQ—16レーザーサイト)、12.7mm GAU—19/B多銃身機関銃(レーザーサイト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

福島 烈陸士長……89式5.56mm小銃(M2ドットサイト、タクティカルライト)、7.62mm M134ミニガン多銃身機関銃(レーザーサイト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

習志野 飛音陸曹長……M4A1 MWS自動小銃(EOTech551ホロサイト、AN/PEQ—16レーザーサイト、シュアファイア M900フォアグリップ)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、M870MCS手動散弾銃(EOTech EXPS3ホロサイト、タクティカルライト)

相浦 真夏3等陸曹……89式5.56mm小銃(M2ドットサイト、AN/PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、110mm個人携帯対戦車弾(パンツァーフアウストⅢ)

対馬 まどか3等陸曹……89式5.56mm小銃(EOTech EXPS3ホロサイト、G33マグニファイア、AN/PEQ—16レーザーサイト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、110mm個人携帯対戦車弾(パンツァーフアウストⅢ)

国分 霧香陸士長……89式5.56mm小銃(C—MOREドットサイト、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、01式携対戦車誘導弾(軽

M A T

相馬原 未咲陸准尉……MINIMI軽機関銃（スペクターDRスコープ、AN/P
EQ—16レーザーサイト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

新発田 渚1等陸士……89式5. 56mm小銃（C—MOREドットサイト、タク
ティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

豊川 かるら1等陸士……89式5. 56mm小銃（M2ドットサイト、AN/P
EQ—16レーザーサイト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、91式携行地对空
誘導弾（携SAM）

新町 かなな1等陸士……89式5. 56mm小銃（EOTech553ホロサイ
ト、AN/PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、US
P自動拳銃（タクティカルライト）、110mm個人携帯対戦車弾（パンツァーファウス
トⅢ）、87式対戦車誘導弾（中MAT）

朝霞 美月陸曹長……89式5. 56mm小銃（ACOGスコープ、AN/PEQ—
16レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

練馬 練歌3等陸曹……89式5. 56mm小銃（M2ドットサイト、タクティカル
ライト、フォアグリップ）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、91式携行地对空
誘導弾（携SAM）

富山 ひみ子陸士長……89式5. 56mm小銃(M2ドットサイト、AN/PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、110mm個人携帯対戦車弾(パンツァーファウストIII)、01式携対戦車誘導弾(軽MAT)

多賀城 直葉陸士長……89式5. 56mm小銃(C—MOREドットサイト、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、M26MASS手動散弾銃
健軍 サクヤ1等陸曹……64式7. 62mm小銃(スペクターDRスコープ、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、9mm拳銃

鯖江 静香1等陸曹……64式7. 62mm小銃(低倍率スコープ、AN/PEQ—16レーザーサイト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

湯布院 陽葵3等陸曹……64式7. 62mm小銃(M2ドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

反町 蘭陸士長……62式7. 62mm機関銃(スペクターDRスコープ)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

下志津 貴音1等陸曹……64式7. 62mm小銃(M2ドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、91式携行地对空誘導弾(携SAM)

明野 菜摘3等陸曹……64式7. 62mm小銃（スペクターDRスコープ、AN／PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

座間 仁菜陸士長……64式7. 62mm小銃（EO Tech 552ホロサイト、G 33マグニファイア、AN／PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

竹松 伊織1等陸士……64式7. 62mm小銃（C—MOREドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

福岡 千紗陸曹長……89式5. 56mm小銃（ACOGスコープ、AN／PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

大村 直果陸士長……89式5. 56mm小銃（C—MOREドットサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

玖珠 紫織1等陸士……89式5. 56mm小銃（C—MOREドットサイト、シユアファイア M900フォアグリップ）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、01式軽対戦車誘導弾（軽MAT）

板妻 木乃1等陸士……89式5. 56mm小銃（EO Tech EXP S3ホロサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

滝ヶ原 珠洲那陸准尉……89式5. 56mm小銃（M2ドットサイト、AN/PEQ-116レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）
 北富士 彩恵3等陸曹……89式5. 56mm小銃（ACOGスコープ、AN/PEQ-116レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

久居 真津梨陸士長……89式5. 56mm小銃（EOTech552ホロサイト、タクティカルライト）、MP7A2短機関銃（EOTech556ホロサイト、AN/PEQ-116レーザーサイト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、84mm無反動砲B（カールグスタフM3）

金沢 香林2等陸士……89式5. 56mm小銃（ACOGスコープ、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）

豊崎 和花3等陸尉……64式7. 62mm小銃（スペクターDRスコープ、AN/PEQ-116レーザーサイト）

クレア||F||プレストン……P90短機関銃（タクティカルライト）、Five|Seven自動拳銃（タクティカルライト）

有馬 官奈……M3A1グリースガン短機関銃、M1911A1自動拳銃

西部 愛……M249PARA軽機関銃（ELCAN M145スコープ、AN/P

EQ—16レーザーサイト)、M240B汎用機関銃(ELCAN M145スコープ、AN/PEQ—16レーザーサイト)、FNX—45自動拳銃(タクティカルライト)
 椎名 六花……MK18 mod1自動小銃(EO Tech EXPS3ホロサイト、G33マグニファイア、AN/PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ)、MP7A1短機関銃(T1ドットサイト、AN/PEQ—16レーザーサイト)、GSR自動拳銃(タクティカルライト)

白根 凜……MK18 mod0自動小銃(M2ドットサイト、AN/PEQ—16レーザーサイト、シユアファイア M900フォアグリップ)、Px4 SDストーム自動拳銃(タクティカルライト)、M500手動散弾銃(EO Tech551ホロサイト、タクティカルライト)

蓮星 文奈……SCAR—H自動小銃(スペクターDRスコープ、AN/PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト、グリップポッド)、HK45自動拳銃(タクティカルライト)

宇都宮 瑠璃陸士長……89式5.56mm小銃(M2ドットサイト、AN/PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ)、USP自動拳銃(タクティカルライト)、110mm個人携帯対戦車弾(パンツァーフアウストIII)

朝戸 未世……M4A1 MWS自動小銃(ACOGスコープ、AN/PEQ—16

レーザーサイト、タクティカルライト、M203擲弾銃)、G17自動拳銃(タクティカルライト)

豊崎 恵那……89式5.56mm小銃(EOTech551ホロサイト、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

三田 玲美……K2自動小銃(EOTech551ホロサイト)、M870MCS手動散弾銃(EOTech551ホロサイト、タクティカルライト)、90-two自動拳銃(タクティカルライト)

芙蓉 まりこ……M249 MK2軽機関銃(スペクターDRスコープ)、M240G汎用機関銃(ELCAN M145スコープ)、P30自動拳銃(タクティカルライト)
 小海 紗津希……M32MGL回転擲弾銃(専用スコープ、フォアグリップ)、MP9短機関銃(T1ドットサイト、タクティカルライト)、M&P9自動拳銃(タクティカルライト)

クラリスサンティニ……FAAMAS自動小銃(M2ドットサイト、タクティカルライト)、SP2022自動拳銃(タクティカルライト)

白野 継実……G36自動小銃(タクティカルライト、AG36擲弾銃)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

來野 未明……MG3汎用機関銃(スペクターDRスコープ)、USP45自動拳銃

(タクテイカルライト)

大庭 瀬菜……M79擲弾銃、チャイナレイク手動擲弾銃、UMP45短機関銃(M2ドットサイト、タクテイカルライト、フォアグリップ)、M45A1自動拳銃(タクテイカルライト)

志熊 海衣……MP5A5短機関銃(M2ドットサイト、タクテイカルライト)、P226R自動拳銃(タクテイカルライト)

志熊 羽衣……MP5A4短機関銃(M2ドットサイト、タクテイカルライト)、P229R自動拳銃(タクテイカルライト)

小泉 樹里……G36C自動小銃(M2ドットサイト、タクテイカルライト、フォアグリップ)、P2000自動拳銃(タクテイカルライト)

新島 早苗……M933自動小銃(EOTech551ホロサイト、タクテイカルライト)、M870ブリーチャー手動散弾銃、G34自動拳銃(タクテイカルライト)

大谷 留美……SCAR-L自動小銃(ACOGスコープ、タクテイカルライト、フォアグリップ)、M5906自動拳銃

立川 理央……AR21自動小銃(EOTech552ホロサイト、タクテイカルライト)、ジェリコ941L自動拳銃(タクテイカルライト)

都城 美陽陸士長……89式5.56mm小銃(スペクターDRスコープ、AN/P

EQ—16レーザーサイト、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

郡山 未冷2等陸士……89式5.56mm小銃(M2ドットサイト、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

榮倉 ミラ……M27IAR自動小銃(スペクターDRスコープ、AN/PEQ—16レーザーサイト、バイポッド)、RPK重小銃、AK101自動小銃(EOtech551ホロサイト、タクティカルライト)、MP443自動拳銃(タクティカルライト)

二ノ方 ありす……クリスベクター短機関銃(EOtech552ホロサイト、タクティカルライト、フォアグリップ)、G21自動拳銃(タクティカルライト)

松本 亜衣璃2等陸曹……M24E1対人狙撃銃(可変倍率スコープ、AN/PEQ—16レーザーサイト、バイポッド)、M95対物狙撃銃(可変倍率スコープ、バイポッド)、89式5.56mm小銃 2型(EOtech552ホロサイト、タクティカルライト)、USP自動拳銃(タクティカルライト)

ヨロコ……HK416自動小銃(スペクターDRスコープ、AN/PEQ—16レーザーサイト、タクティカルライト、バイポッド)、P226R自動拳銃(タクティカルライト)

マドレーヌ……ヘカートII対物狙撃銃(可変倍率スコープ、バイポッド)、FA—MA

S 自動小銃 (M2 ドットサイト、G33 マグニファイア、タクティカルライト)、PAM
AS G1 自動拳銃、MR96 回転拳銃

沢城 桐子……M24 A2 対人狙撃銃 (可変倍率スコープ、バイポッド)、ARX16
O A2 自動小銃 (スベクターDR スコープ、タクティカルライト、フォアグリップ)、M
17 自動拳銃 (タクティカルライト)

沢城 昌子……M27 IAR 重小銃 (可変倍率スコープ、AN/PEQ-16 レー
ザーサイト、タクティカルライト、バイポッド)、P320 自動拳銃 (タクティカルライ
ト)

照安 鞠亜……M82 A2 対空/対物狙撃銃 (可変倍率スコープ、バイポッド)、MP
5K PDW 短機関銃 (EOTech 552 ホロサイト、タクティカルライト)、XDM
—9 自動拳銃 (タクティカルライト)

本郷 ももこ……MP5F (JP) 短機関銃 (M4 ドットサイト)、M92 バージェツク
自動拳銃 (タクティカルライト)、FGM-148 ジャベリン対戦車ミサイル

百瀬 理子……89 式 5.56mm 小銃 2 型 (EOTech 551 ホロサイト、A
N/PEQ-16 レーザーサイト)、USP 自動拳銃 (タクティカルライト)

その他

M26A2J 破片手榴彈

MK3A2 攻撃手榴彈

M84 音響閃光手榴彈

催涙球2型

焼夷手榴彈

M18 発煙手榴彈

MK1 照明手榴彈

SIMON120 扉破碎小銃擲彈

M870ブリーチャー手動散弾銃

軽装甲機動車(12.7mm M2重機関銃)

軽装甲機動車(74式7.62mm車載機関銃)

96式装輪装甲車(12.7mm M2重機関銃、MINIMI軽機関銃)

高機動車

1/2tトラック(パジェロ)

M-ATV機動装甲車(12.7mm M2重機関銃)

偵察オートバイ

装甲サイドカー(74式7.62mm車載機関銃)

敵対勢力

マグマ軍

小火器

マカロフPM自動拳銃

PPS—43短機関銃

KS—23手動散弾銃

AKS—74自動小銃

RPK—74重小銃

PKM汎用機関銃

AN—94狙撃小銃

SVD対人狙撃銃

OSV—96対物狙撃銃

GP—25擲弾銃

RPG—7対戦車ロケットランチャー

小火器（特殊部隊用）

スチエツキン機関拳銃
O T s | 0 2 短機関銃
A P S 水中自動小銃
O T s | 1 4 自動小銃
A S ヴアル消音自動小銃
S V D S 对人狙撃銃
V S S 消音对人狙撃銃
重火器
7 . 6 2 m m D T 車載機関銃
1 2 . 7 m m D S h K M 重機関銃
1 4 . 5 m m K P V 重機関銃
車両
重戦車 0 1 4 號
重戦車 1 號 1 型
重戦車 8 0 號
重戦車 7 2 號
重戦車 6 4 號

重戦車 60 號

中戦車 54 號

中戦車 34 號 2 型

突撃砲 152 號

歩兵戦闘車 2 號

BTR—80 裝輪裝甲兵員輸送車

コブラ機動裝甲車

BRDM—2 偵察裝甲車

UAZ—469 多用途車

GAZ—66 中型トラック

Ural—4320 大型トラック

対空戦車 23 號 4 型

対空戦車 222 號

火砲等

122mm D—30 牽引榴弾砲

152mm ムスタB 牽引榴弾砲

152mm 自走榴弾砲 3 號

203mm 自走榴弾砲7號

多連裝噴進砲21號

多連裝噴進砲T1號

航空機

攻撃ヘリ24號

攻撃ヘリ50號

攻撃ヘリ64號E型

Mi-8汎用ヘリ

Mi-17輸送ヘリ

防空戦闘機27號SM型

戦場戦闘機29號A型

艦上戦闘機14號AM型

軽戦闘機5號E型

戦闘爆撃機4號E型

戦闘爆撃機24號M型

対地攻撃機25號SM型

戦略爆撃機22號ME型

アラブ社会主義連盟（ASF）

小火器

G19 自動拳銃

PC-9 自動拳銃

カラカル 自動拳銃

UZI 短機関銃

M88 ブルパップ 手動散弾銃

ガリルAR 自動小銃

ガリルACE 23 自動小銃

XM23E2 自動小銃

HK33E 自動小銃

FAR-224 自動小銃

FNC 自動小銃

5.56A-91 自動小銃

AUG A2 自動小銃

VHS-D 自動小銃

KH—2002カイバー自動小銃

97B式5・56mm自動小銃

G3A6自動小銃

FAL自動小銃

U—100 MK5重小銃

XM207E2軽機関銃

HK23E軽機関銃

HK21E汎用機関銃

MG3汎用機関銃

M91狙撃小銃

ガラッツ対人狙撃銃

JNG—90対人狙撃銃

シヤバシユ対人狙撃銃

HS・50対物狙撃銃

サーエゲ噴進擲弾銃

RPG—7対戦車ロケットランチャー

M47 ドラゴン対戦車ミサイル

9 K 1 1 5 | 2 メテイスM対戦車ミサイル
重火器

1 2 . 7 m m D S h K M 重機関銃

7 . 6 2 m m A k h g a r 多銃身機関銃

2 3 m m A s e f e h 多砲身機関砲

トウーフアン2対戦車ミサイル

車両

M 1 A 1 M 主戦車

T | 7 2 S 主戦車

T | 7 2 Z 中戦車

トーサン軽戦車

A C V | 3 0 0 歩兵戦闘車

B T R | 4 装輪歩兵戦闘車

パトリア装輪装甲兵員輸送車

M 1 1 1 7 機動装甲車

ニムル機動装甲車

R G | 3 1 機動装甲車

V N—3 偵察装甲車

メガクルーザー多用途車

ランドクルーザー武装SUV

FJクルーザー武装SUV

ハイラックス武装ピックアップトラック

GAZ—66 中型トラック

Ural—375 大型トラック

アエロサン

火砲等

155mm ソルタムM71 牽引榴弾砲

170mm M1978 コクサン自走榴弾砲

120mm AMV 装輪自走迫撃砲

HM20 装輪多連装ロケット砲

スカッド短距離弾道ミサイル

バビロン多葉室砲

航空機

パンハ2061 偵察ヘリ

A H—1 J 攻撃ヘリ

パンハ2—75 汎用ヘリ

C H—47 C 輸送ヘリ

サーエゲ軽戦闘機

用語解説

中央混成連隊

地底特殊甲種害獣（通称・マグマ軍）によつて占領された国土を奪還するため、稲木菜央防衛大臣（当時）の命で設立された即応機動部隊。元第1空挺団小隊長・土居内佳樹3等陸尉（当時）を指揮官に、様々な隊から選抜した女性自衛官と余剰兵器で編成された。関東奪還作戦において重要な役割を担い、「関東奪還の英雄」と言われている。

自動拳銃

英訳は「Semi-automatic Pistol」。遊底（スライド）が前後する事で連発出来る拳銃の事。元々は指揮官や戦車兵、砲兵やパイロットの自衛武器だったが、最近では市街戦用に一般兵も所持するようになった。

回転拳銃

英訳は「Revolver Pistol」。自動拳銃が出てきてすぐの頃までは広

く使われており、今なお警察や市民の自衛用として利用されている。

短機関銃

英訳は「Sub machine gun」。拳銃用の弾を使う、小型の機関銃。第一次世界大戦の際に、ドイツ軍が塹壕内戦闘用に開発したのが最初。現在では、自動小銃の登場により、警察や軍用機パイロットくらいしか使わない（だが、警察でもテロリストが防弾チョッキを着るようになり、短機関銃では威力不足であるとして、自動小銃に切り替えるようになってきた）。

手動散弾銃

英訳は「Slide action shotgun」。日本国内では「ポンプアクション式ショットガン」と呼ばれたりする。先台（フォアエンド）をスライドさせる事で排莖を行う。利点として、「故障が殆ど無い」、「様々な弾を問題無く使える」が上げられる。

自動散弾銃

英訳は「Semi-automatic shotgun」。反動を利用して排莖す

る。制圧力は高いが、柔軟性が無い（一応様々な弾を使えるが、その度に規整子を調整しなくてはならない）。

自動小銃

英訳は「Assault rifle」。短小弾というジャンルの弾を使用出来るライフル銃。世界初はドイツのmkb42やアメリカのM1カービン、はたまたロシア帝国のフェデロフ M1916とか言われている。

重小銃

英訳は「Infantry automatic rifle」。自動小銃と軽機関銃の中間的存在。「無駄に重い自動小銃」、「精度のいい自動小銃」、「制圧射撃が出来ない軽機関銃」と思えばいいと思う（雑）。

手動小銃

英訳は「Bolt-action rifle」。自動小銃が登場する前の歩兵の友。現代では、狙撃銃のベースか、オリンピック競技くらいでしか見ないのだが……。

軽機関銃

英訳は「Light machine gun」。自動小銃と同じ弾を使う、軽量な機関銃。冷戦真っ只中に定義ががらりと変わり（自動小銃の大幅な更新に伴い）、二次大戦と現代では全く異なっている。

汎用機関銃

英訳は「General purpose machine gun」。かつて軽機関銃と呼ばれていた機関銃。殆どの場合、対人狙撃銃と同じ弾を使う。汎用機関銃の礎と言われるのは、ナチスドイツのMG42である（通称・ヒトラーの電動ノコギリ）。

狙撃小銃

英訳は「Sharpshooter rifle」、もしくは「Marksman rifle」。自動小銃を狙撃出来るように改造したもの。専用の狙撃銃よりは精度が劣る。

対人狙撃銃

英訳は「Sniper rifle」、もしくは「Sniper system」。つ

まり普通の狙撃銃。手動と自動に分けられるが、近年の自動対人狙撃銃の精度は馬鹿に出来ない。

強装対人狙撃銃

・ 338ラプアマグナム弾や、300ウィンチエスター弾といった、対物狙撃銃程ではないが対人狙撃銃より強力な弾を使う銃。「従来の対人狙撃銃では射程不足、でも対物狙撃銃は重過ぎる」という要求によって生まれた。

対物狙撃銃

英訳は「Anti-mater rifle」。重機関銃に使うような弾を使う、馬鹿デカイ狙撃銃。人間がかかるうじて持ち上げられるサイズ。爆発物処理や敵装備・車両の破壊に使う。人間相手に使うと、「ミンチよりひでえや」になる。

擲弾銃

英訳は「Grenade launcher」。爆発する擲弾という弾を発射する。元々、「迫撃砲と手榴弾の間を埋める武器」として、旧日本軍の八九式重擲弾筒とナチスドイツのカンプピストルを参考にアメリカが作った（それがM79擲弾銃）。その後、

「自動小銃にくつつけられる便利な奴」として、M203擲弾銃が作られた。さらには、MK19や96式の機関銃タイプ、M32MGLのリボルバータイプ、チャイナレイクの散弾銃タイプが作られた。

車載機関銃

汎用機関銃を改造し、戦車や装甲車、ヘリコプターに積めるようにした物。重量を気にせず設計出来るため、汎用機関銃より頑丈。

重機関銃

英訳は「Heavy machine gun」。とりあえずデカイ機関銃。アメリカのブローニング M2が世界最高傑作と言われ、第二次世界大戦から現代までずっと使われている。冷戦期にアメリカが後継を作ったが、耐久性で負けた。最早M2はオーパーツか何か。フォークランド紛争では、アルゼンチン軍が12.7mm M2重機関銃にスコープを取り付け、2000m先のイギリス軍を狙撃した事があり、これを機に対物狙撃銃が作られた。

主戦車

英訳は「Main battle tank」。二次大戦の中戦車をそのまま大きくした、戦後戦車の主流。冷戦期は対NBC能力が、現在では市街戦能力やデータリンク能力が求められる。

中戦車

英訳は「Middle tank」。機動力と戦闘能力のバランスを重視した戦車。戦後は主戦車に分類されるようになる。

軽戦車

英訳は「Light tank」。機動力を重視した戦車で、偵察を主任務とする。ただ、戦後はすっかり廃れた。

装輪戦車

英訳は「Wheel tank」。現代版軽戦車。タイヤで走るため、機動力が高い。その代償として、防御力や安定性が低くなっている。

歩兵戦闘車

英訳は「Infantry fighting vehicle」。歩兵を運ぶ装甲車に、機関砲や小口径砲を搭載したもの。防御力は普通の装甲車、価格は主戦車並みという訳で、数は多くない。

装輪歩兵戦闘車

英訳は「Wheeled infantry fighting vehicle」。タイヤで走る歩兵戦闘車。戦闘能力そのままにコストダウン出来るので、近年増えている。

装輪装甲兵員輸送車

英訳は「Wheeled personnel carrier」。稀に「Battle taxi」とも呼ばれる。10人程度の歩兵を運ぶための大型装甲車。武装は重機関銃程度で、戦闘能力はお察しください。ただ、市街戦での火力支援には充分だし、ハッチからは対戦車ミサイルも撃てる。

機動装甲車

英訳は「Infantry mobile vehicle」。4人乗り程度の小型

装甲車。市街戦における小回りを重視している。成功例として、軽装甲機動車がある（自衛隊内からの評価は散々だが）。

多用途車

所謂ジープの類。装甲は無いが、輸送に偵察、伝令と多くの任務をこなせる。ジープより先に、日本が九五式軍用自動車というのを実用化していたが、あまり知られていない。更に前では、サイドカー付オートバイが使われていた。

偵察装甲車

偵察用の装甲車。機関砲を有し（一部は重機関銃）、タイヤで走る。戦闘能力は無く、あくまでも気休め程度の装甲。

武装SUV

テクニカル的一种。民間のSUVに重機関銃を搭載したもの。装甲は無い。

武装ピックアップトラック

テクニカルと言えばこっち。やはり装甲は無い。だいたいトヨタかフォード製が利

用され、敵味方共トヨタのピックアップトラックを使ったがために「トヨタ戦争」と呼ばれた事も。

攻撃ヘリ

英訳は「Attack helicopter」。元々、ベトナム戦争時に「汎用ヘリに随伴出来る、対地攻撃能力のみを有するヘリコプター」が必要とされて作られた。当時は車載機関銃やロケット弾ポッド程度だったが、後に対戦車ミサイルや機関砲を積むようになった。

偵察ヘリ

英訳は「Observation helicopter」。武装は車載機関銃やロケット弾ポッド（一部空対空ミサイル）のみで、偵察や着弾観測を専門とする小型ヘリ。

汎用ヘリ

英訳は「Multipurpose helicopter」。戦争は地獄だぜ！

え、違う？ 10人程の歩兵を運べる中型ヘリ。武装は機関銃のみ（一部の国ではロケット弾ポッドや対戦車ミサイル）。陸上自衛隊では偵察オートバイを積むという無茶

をやった。

制空戦闘機

英訳は「Air superiority fighter」。敵機を叩き落とす為の戦闘機。近年減少中。

多用途戦闘機

英訳は「Multirole fighter」。対地攻撃能力を有する単座の戦闘機。近年増加中。

戦闘爆撃機

英訳は「Fighter-bomber」。対地攻撃能力を有する双発複座の戦闘機。

戦闘攻撃機

英訳は「Fighter-attacker」。対地攻撃能力を有する単発複座の戦闘機。

8th これより排除する

目の前——というより、双眼鏡で覗いた先の景色は、敵しかいなかった。

「こんな明るい内に突入ですか？ どうぞ撃ってくださいと言ってるようなもんですよ」

砂丘に隠れ、双眼鏡から目を離れた西部が、須恵原1尉に問う。が、須恵原1尉は口を開いた。

「既に、連中は機甲師団が接近しているのに気付いている。夜まで待っていたら、守備部隊を増やされて、この町が廃墟か更地になってしまう。坂城2尉、さっき言った通りに狙撃班を先に潜入させ、我々も続く」

その指示に、坂城2尉が応える。

「了解。1—2、2—2、狙撃班のエスコートと進入路の確保だ」

すると、朝霞が須恵原1尉に質問した。

「須恵原1尉、ROE (Rule Of Engagement、交戦規則) は？」

「武装している者、無線や携帯を持っている者は容赦するな。後者と一般人の区別は難しいだろうが、そこは徹底してくれ。海外で自衛隊の評判を落とす訳にはいかないから

な」

「了解」

「よし、前進だ。何かあれば、ここから支援射撃をする。スナイパーには気を付ける」

「了解。皆、前進」

そして、14人が移動を開始した。

アスラール共和国の首都・エルダビアから南西に180kmの所にある街、ファルジナ。ペルシャ湾に面した港町から運ばれてくる物資は、必ずここを通ってエルダビアへ向かう、云わば交通の要所であった。

「いた。ASF兵士、2人。奥には……誰もいない」

14人は壁伝いに移動し、ファルジナに潜入するのに成功した。そして、先導していた国分が、曲がり角で敵を見つける。

「私が奥のをやる。相浦は手前を。くれぐれもヘボをするなよ?」

「これだから元一空は嫌いなんだ」

愚痴りながらも、相浦は89式多用途銃剣を取り出す。すると、習志野がレッグホルスターからUSP自動拳銃を抜きながら返した。

「好き嫌いなら、日本に帰ってから聞いてやる。やるぞ」

延長銃身の銃口カバーを外し、減音制退器（サウンドサプレッサー）を装着。弾倉を外し、代わりに緑色の弾丸——亜音速弾——が入った弾倉を装填、遊底をスライドする。

2人は曲がり角に並び、習志野は立って、相浦は片膝を地面に付ける。

「ゴー」

習志野はU S P自動拳銃で発砲、相浦が近くにいたA S F兵士に駆け寄り、頸を89式多用途銃剣で突く。

くぐもった銃声と共にA S F兵士が倒れ、相浦が89式多用途銃剣を引き抜く。

「クリア」

「移動する。松本、あれとかはどうだ？」

レッグホルスターにU S P自動拳銃を仕舞いながら、習志野が通りの向かいのビルを指差す。

「使える。沢城チームはあっちのビルへ。発砲はまだ」

「了解」

直ちに二手に分かれ、警戒しながら通りを渡る。

「よし、行くよ」

朝霞が言い、隊員達——練馬、富山、多賀城、沢城桐子、沢城昌子、照安——が頷いた。

扉を開け、中に入る。中は暗く、窓も無い。

7人は警戒しながら、静かに進む。曲がり角を確認した練馬が左手でグーサインを出し、入り口を警戒していた富山の肩を朝霞が叩き、進む。

突き当たりの階段を、ゆっくりと登る。

4階へと登った先には、マグマ軍歩兵の後ろ姿。

朝霞がハンドサインを出し、多賀城が腰に提げていた短刀〈白之紫〉を鞘から抜く。そして、マグマ軍歩兵の背後から近付き、左手でマグマ軍歩兵の口を抑え、右手の〈白之紫〉で首を斬った。

（富山土長、多賀城1士は右手の部屋を。私と練馬は左手の部屋を制圧する。狙撃班は階段を警戒）

朝霞がハンドサインで指示を出し、皆頷く。そして分かれた。

富山と多賀城が扉の前に立ち、頷き合う。そして、扉をゆっくり開けた。そこには、際でPKM汎用機関銃を伏せて構えるマグマ軍歩兵と、隣でAK-74自動小銃を床に置き、双眼鏡で監視するマグマ軍歩兵。幸い意識は窓の外、南側を見ている。

2人は89式多用途銃剣と〈白之紫〉を抜き、ゆっくり近付く。そして、首をさくつと斬った。

「クリア。こっちは見晴らしがいいわ」

「こつちもクリア。南側が見える」

「多国籍軍が攻めてくる方だ」

「こつちなら、北も見えるわよ」

「了解、そちらに向かう」

通信を終え、富山はPKM汎用機関銃を持ち上げた。

「これより南側を監視する。万が一あつたら直ぐに知らせる」

「了解。気を付けてよ」

「ああ」

富山は伏せ、PKM汎用機関銃の尾筒蓋（フィードカバー）を開いて、装弾を確認した。

沢城達は移動し、朝霞達が制圧した部屋に入る。窓は、北・西・東それぞれにあり、確かに視界がいい。

桐子は背負っていたM24A2対人狙撃銃を手にし、銃口に減音制退器を装着し、作動桿を引いた。

「こちらシュガー4。配置に着いた」

「シュガー1、了解。シュガーよりゼブラ、準備良し」

「ゼブラ、了解。移動する」

砂丘に隠れていた、残りのメンバーが移動を開始した。

「お姉ちゃん、敵の見張り」

「確認した」

観測用単眼鏡を覗いていた昌子が、ビルの屋上にA S F兵士を見つけた。

「シユガー4からゼブラ。敵の見張りを発見した。これより排除する」

「ゼブラ了解。全員、止まれ」

並べたテーブルの上に伏せた桐子は、深呼吸をする。

「距離は？ だいたい260m？」

「264m、撃ち下ろし14。ほぼ無風」

観測用単眼鏡のレーザー測距機能や水平儀、周りの景色からの情報を、昌子は桐子に伝える。

スコープの規正距離（ゼロイン）は400m、覚えている数値を元にスコープのダイヤルを回す。

スコープの倍率は最小、十字型照準線がA S F兵士と重なる。

引き金に触れ、スコープが上下に揺れるのが治まるのを待つ。そして、引き金を引いた。

9th 撃ちまくれ

桐子が放った7・62×51mm NATO弾は、向かいのビルの屋上でシヤバシユ対人狙撃銃を構えていたASF兵士に命中した。

「ヒット、その横にスポッター」

昌子がそう報告し、桐子がM24A2対人狙撃銃の作動桿を引いて排莢させる。

即座に狙いをずらし、敵観測手を捉えた。そして再び、引き金を引いた。

〔シユガー4よりゼブラ。敵スナイパーを排除した〕

「ゼブラ了解。移動を再開する」

再び即応機械化中隊が分隊毎に分かれて移動する。

しかし、ベイカー111が曲がり角でASF兵士と遭遇してしまった。

ASF兵士はFNC自動小銃を構え、発砲しようとする。が、椎名が素早くFNC自動小銃の被筒を掴んで狙いを逸らす。そして、フルオートで吐き出された5・56×45mm SS109弾は虚空目指して飛んでいき、銃声が静かな街に鳴り響く。そして椎名はコンバットナイフを抜き、ASF兵士の首に押し当てる。そのまま壁まで押し、体重を掛けてASF兵士の首にコンバットナイフをめり込ませる。刃が動脈に達した

のか、血が噴き出す。そして、暴れるA S F兵士の動きが止まった。

「ベイカーラー、敵に発砲されてしまった！」

椎名が頭に着けたヘッドセットに繋がった、コータムⅡ（広域多目的無線機 Ⅱ型）に

叫ぶ。

「ゼブラ了解！ 畜生、撃ちまくれ！ 遠慮など要らん！ ゼブラチャーリーからニアボアブラザー！ 大至急チャーリーアルファシエラを送れ！」

「トムキャット22、コピー。まだA A（A n t i - a i r c r a f t A r t i l l e r y、対空兵器）狩りが行われていないため、送れるのはF - 16のみだ」

即座に障害物に隠れ、戦闘態勢を整える。G 33マグニファイアをE O T e c h E X P S 3ホロサイトに重ね、赤い照準点を拡大する。そして、交差点の角から出てきたA S F兵士達を狙った。

「南30 m、ライフル兵8人！」

「了解、射撃する！」

M K 1 8 m o d 1自動小銃、M K 1 8 m o d 0自動小銃、S C A R - H自動小銃が5・56×45 m m 普通弾（C）と7・62×51 m m N A T O弾をばらまき、A S F兵士達を倒す。

「畜生、始まりやがった！」

床に伏せた富山がPKM汎用機関銃を構え、壁に開いた穴から射撃する。5. 56A—91自動小銃を持ったASF兵士が道路を横断し、それを倒した。

「まずい、逃げろ！」

多賀城が叫び、富山のYシャツの後ろ襟を掴んで引き上げる。富山はPKM汎用機関銃を捨て、急いで部屋の隅へ飛び移った。

直後、外に面していた壁が吹き飛んだ。

「グレネードかよ！」

「富山士長、怪我は!？」

「ああ、大丈夫だ」

富山は立ち上がり、投げ出された89式5. 56mm小銃を持ち上げた。

「ひみ子さん、何が起きたの!？」

「大丈夫だ朝霞。グレネードを撃ち込まれただけ——」

その時、多賀城が89式5. 56mm小銃を発砲した。見れば、ぽつかりと吹き飛んだ壁の外には、ASF兵士やマグマ軍歩兵が集まり始めていた。

「まずい、敵が集まり始めている！」

「分かったわ。移動しましょう」

「どうやってだよ。外には敵がいるんだぜ？」

「屋上よ。屋根伝いに移動すれば行けると思うわ。階段で集合」

「了解。行くぞ」

「承知した」

2人は部屋を出た。

階段で落ち合った7人は、更に階段を登り、屋上までやってきた。

「直葉さんが扉を開けて。ひみ子さんと練馬は外を警戒」

朝霞の指示に従い、多賀城がドアノブに手を掛ける。

「ゴー」

扉が開き、富山と練馬が89式5.56mm小銃の銃口を外に向けた。

「クリア」

ゆつくりと外に出て、死角を確認する。

「行けるわ、イケちゃうわ」

「移動するわ。敵スナイパーに警戒」

「ちよっ!?! スルー!?!」

1人文句を垂れるが、7人は屋上を移動し、縁に着いた。照安が向かいのビルまでの間を見、下を覗き込む。向かいまでの距離は5m、下まで40mといった所か。

「これは無理な話よ」

M82A2 対空／対物狙撃銃を背負い、MP5K PDW 短機関銃を手にした照安が
そう言うのと、練馬が屋上に転がっていた梯子を見つけた。

近寄って持ち上げ、頑丈か確かめる。

「硬さも長さもバッチリよ」

「練馬、狙って言うてる？」

朝霞の問い掛けに、練馬は肩をすくめるだけだった。

高さ8mはあろう梯子を、練馬と多賀城が持ち上げ、向かいのビルの屋上へと掛ける。

「一人ずつ渡りましょう」

「あたしに任せろ」

富山は89式5.56mm小銃を右手だけで保持し、四つん這いで梯子を渡る。他の

メンバーは向かいのビルを警戒する。

「こつちからはあられも無いアングルね。ひみ子ちゃん、意外と——」

「見んじやねえよ！」

練馬の発言に怒鳴る富山。

そして渡りきった。

「クリアだ。ついて来ていいぜ」

「練馬、先に渡りなさい」

朝霞がそう言い、練馬が不服そうな顔をした。

「何だよ。最後がいいわ」

「全員のパンツ見る気でしょ。帰ったら警務隊に通報するから」

「パンツじゃなくてパンティよ！」

「どっちでもいいから早く渡りなさい！」

朝霞が練馬の尻を蹴り、渋々練馬も四つん這いになる。

「幼馴染への扱い酷くない？ あ、もしかして私の——」

「冗談じゃない。幼馴染と思つた事はコンマ0秒も無いわ」

「やっぱり酷いわ」

練馬が渡り、多賀城、朝霞、桐子、照安、昌子の順に梯子を渡り終えた。直後——

「\$→☆\$A♫♂∴×∥■%♯%▽∩▼※!」

階段からASF兵士が飛び出してきて、KH—2002カイバー自動小銃で5. 56

×45mm S S 109弾をフルオートでばらまく。

「練馬がさつさと渡らないから！」

「私の所為!?!」

7人は咄嗟に伏せ、昌子と朝霞が反撃を行う。

しかし、ASF兵士が次々と湧いて出てくる。

「キリが無い！ R G (R i f l e G r e n a d e、小銃擲弾)で階段を吹き飛ばせ！」
「おうよー！」

富山は89式5. 56mm小銃の銃口に06式小銃擲弾を差し込み、銃床を肩に当てて階段を狙う。そして、引き金を引いた。

階段が見事吹き飛んだ。多賀城や練馬が残りの敵を掃討する。

そして7人は移動を再開した。

10th 爆弾です

ビルの階段を駆け下り、7人は道路に面したドアまでやってきた。

「よし、富山さんが開けて」

朝霞の指示に富山は頷き、ドアを手前に引いて開け放つ。通りに人の姿は見えないが、遠くから銃声が鳴り響いている。

「ゴー」

朝霞の言葉と共に、富山と多賀城が飛び出し、一気に道の反対側へと渡る。

渡り切った2人はハンドサインを出し、安全を伝える。すると直ぐにスナイパー3人組が渡ってきて、その後に朝霞と練馬が続く。

全員が渡り切り、多賀城は背負っていたM26MASS手動散弾銃の槓桿を引き、12ゲージ散弾（ドアブリーチング弾）を薬室に送り込む。そして、ドアノブに銃口を押し付けて発砲した。

広大な砂漠の中、大量の戦車が走る。

「全く、どうして私がこんな辺境の砂漠まで来なければならないのよー」

先頭を走る、デザート迷彩仕様の10式戦車の車長用キューポラから頭を出す、即応機械化中隊 第1戦車小隊長の駒門が愚痴を溢す。

「それ、今更言ってもどうにもなりませんよ」

砲手用ハッチから頭を出す武器娘・ヒトマルにそう言われ、駒門は「むう?？」と頬を膨らます。

するとそこへ、無線で連絡があつた。

「トムキャット22からクイーンコマンドー。ポイントDA-2816に複数の熱源反応を捉えた。デコイ(囷)の可能性があるが、注意しろ。プラウチームがチャージャーアルファシエラのために待機している」

「クイーン11、ラジャー。11より全車、全周囲警戒。後顧の憂いはありませんわね? 見つけたら派手にぶちかましなさい!」

『ラジャー!』

相馬原と芙蓉、2人の5.56mm軽機関銃が弾幕を張り、その間に他の隊員達が前進する。

「GOO!」

視界に入ったマグマ軍兵士やASF兵士を、的確に撃ち抜き進む。

久居や金沢、豊崎、朝戸達は歩道に頭から乗り上げたダッチラムバンの陰に隠れて弾倉を交換する。すると、久居が何かに気付いた。

「待って。何かコードが——」

汚れまくった商業用バンの下から、近くの建物へとコードが伸びている。久居は89式5.56mm小銃と84mm無反動砲(B)を傍らに置き、バンの下へと手を伸ばす。「何かある、これは——爆弾です!」

その言葉に、その場にいた全員の顔が青くなる。

「IED (Improved Explosive Device、即席爆発装置) ですか!」

「恵那ちゃん、そのコードを追って! 早く!」

滝ヶ原の言葉に、豊崎は頷いた。

「了解しました!」

「あたしも行きます!」

G36自動小銃を手にした白野と共に、豊崎は建物に突入した。

ドアを蹴破り、被筒に装着したタクティカルライトを点灯させる。床を伝うコードを追う、地下へと続く階段を下る。

そして、ある部屋へと入った。2人は死角に注意し、部屋を探索すると、コードが繋

がった手の平サイズの箱を見つけた。

「これだ！」

豊崎が駆け寄り、作業用デスクの上の箱に手を伸ばす。その側面の液晶画面に表示された数字がどんどん減っていく。豊崎は、とりあえずコードを引き抜く事を思いついた。

するとその時、カアーンという甲高い音が背後で鳴った。

「何!？」

振り返れば、そこにはフライパンを手にしたマグマ軍歩兵。その足元には、のびた白野の姿があった。そして、マグマ軍歩兵は豊崎へとフライパンを振りかざす。豊崎は辛うじてフライパンをかわし、素早くヒップホルスターからUSP自動拳銃を引き抜く。セーフティレバーを下ろし、そのままマグマ軍歩兵の腹部目掛けて引き金を引きまくる。

ホールドオープン、足元に9?19mmパラベラム弾（フルメタルジャケット弾）の複数の葉莖が転がり、マグマ軍歩兵の物言わぬ死体が倒れる。豊崎はUSP自動拳銃の弾倉を交換、スライドストップレバーを下ろす。そして、思い出した。

急いで箱を持ち上げる。液晶画面のカウントは、5秒を切っていた。すぐにコードを外すと、カウントダウンは止まった。

「ふう??」

豊崎は溜息をつく。すると、耳にはめたヘッドギアのイヤホンから、緊迫した声が響いた。

「豊崎！ 爆弾は解除したのか!? それと白野はどうした!?」

「まりこさん、解除は出来ました。継実は、フライパンで殴られてのびてます」

「PUBGかよ！ 今こっちは敵と交戦中だ！ 陸自と米海兵隊が駆けつけてくれたが、数が足りない！ 急いで戻ってこい！」

「了解！」

豊崎は、のびている白野を背負い、地上へと戻った。

111th 弾幕を張れ

白野を背負った豊崎は、駆けつけた救護班に白野を預けた。

「お願いします！」

「任せました！ ひかりちゃん、バイタルチェック！」

「了解！」

すると、宇都宮が豊崎に向かって叫んだ。

「恵那！ ASFのテクニカルで弾幕を張れ！」

「了解！」

急いで豊崎は、道端に放置されたテクニカル——タコマ武装ピックアップトラック——の荷台によじ登り、そこに設置された12.7mm DShkM重機関銃の銃把を握った。

7人は薄暗い路地裏を突き進む。すると、無線で連絡があつた。

〔エーブルコマンダーから2—2。メディックチームが後退するため、支援射撃を行つてくれ〕

「2—2からコマンダー、位置と方位を」

「TDL (Tactical Data Link、戦術情報共有) で送った。南に後退する」

そう言われ、朝霞はコータムⅡの画面を見る。救護班がいるのは、現在地から近い。

「2—2、メディックチームの援護に向かう。皆、行くわよ」

7人は移動を再開、建物に突入した。

階段を上り、一気に屋上へ。角を陣取り、桐子と照安はそれぞれの狙撃銃の二脚を広げて構えた。

「2—2、位置に着いた」

「メディック了解。移動します」

眼下の通りを、衛生班が走る。先頭を、防暑迷彩服と3型防弾チョッキを着た三宿、その後から白野を背負った上月が走り、通りに停車していた軽装甲機動車と高機動車の車列に近付く。そして、高機動車に乗り込んで去っていった。

ファルジナ上空を、イスラエル空軍所属のF—16I戦闘攻撃機の編隊が飛ぶ。ファルジナ入りを果たしたアメリカ海兵隊の部隊が要請した航空支援に対し、既に中国空軍の殲—10B多用途戦闘機が雷霆—2 500kgレーザー誘導爆弾を投下している。

「スカイアイ41よりフィロン1、ミスフィット1-3がチャーリーアルファシエラを要請。ポイントAF-1378、方位090より侵入せよ」

「フィロンリーダー、コピー。ターンヘディング、ナウ」

F-16I戦闘攻撃機の編隊は転進した。

豊崎は12.7mm DShKM重機関銃を撃ちまくる。突撃してくるマグマ軍歩兵達が、12.7×108mm弾（フルメタルジャケット弾）によって次々とミンチになつていく。

上空を、米海兵隊のAH-1Z攻撃ヘリとUH-1Y汎用ヘリが飛んでいき、20m M197多砲身機関砲が咆哮を上げる。そしてホバリングしたUH-1Y汎用ヘリから海兵隊員達が降下してくる。

12.7mm DShKM重機関銃が弾切れになり、豊崎は装弾板を開き、空になつた弾薬箱を放つて代わりに弾薬箱を持ち上げる。スタータータブを引っ張り出し、それを給弾板に乗せて装弾板を閉じる。

その時、強い揺れが彼女達を襲つた。

揺れでタコマ武装ピックアップトラックが浮き上がり、豊崎は放り投げられる。そして、アスファルトに叩き付けられた。

痛みに耐える彼女が最後に目にしたのは、すぐ側のビルがホバリングしていたUH-1Y汎用ヘリを巻き込んでこちらに倒れてくる光景だった。

12th Freeze

「——ばる中東までやってきて、自衛隊もすっかり変わってしまったね。お兄さん、生か死か、どっちがいい？」

「何で日本人がここに——」

「早く答えないと、大事なタマを撃っちゃうよ？」

「待て、俺はまだ——」

ドゴオン。

朦朧としてはいた意識が、1発の銃声ではつきりとした。痛みは無いが、体が動かない。かろうじて動く腕を動かすと、何か硬い物で囲まれているのが分かった。

(いや、挟まっている?)

渾身の力を込めて目の前の硬い物を押し退け、上体を起こす。周りは暗く、所々で照明が付いてはいた。彼女はヒップホルスターからUSP自動拳銃を抜いて近くの物陰に隠れた。

【Tell the UNSoldiers(国連軍兵士達に告ぐ)！ We ASF

and Magma Army let's extend our help
to all UN soldiers (我々ASFとマグマ軍は、全ての国連軍兵士
達に救いの手を差し伸べよう)！ Get out in a visible p
lace (見える場所に出てこい)！ If you are hiding, you
will regard it as an invasion act (隠れてい
ると、侵略行為と見做すぞ)！

彼女は、スピーカーから流れる英語の全てを理解できなかつた。しかし、今見つかれ
ば碌な目に遭わないというのは分かつた。

「——イアイ41より全——バーン北西16kmで大規模な——動が無かつた事から、
人工で——ちにファルジナより撤——」

耳に当てたヘッドセットから無線で指示が聞こえた。しかし、調子が悪いのか電波が
足りないのか、あまり聞き取れなかつた。

彼女は、物陰沿いに移動を開始した。

道路に出来た亀裂を、匍匐前進で進む。その上を、何も知らないASF兵士やマグマ
軍歩兵が飛び越えていく。

(お願い、見つけないで！)

彼女は祈る思いで進む。

道の真ん中に墜落したUH—1Y汎用ヘリの残骸から米海兵隊員の死体が転げ落ち、彼女は悲鳴を上げそうになる。咄嗟に口を塞ぎ、出かかった悲鳴を必死に抑える。そして、匍匐前進を再開した。

何とか通りを渡りきり、彼女は近くの建物の扉をそつと開ける。そして、中に入つて音が出ないように扉を閉めた。

「連中、核実験なんて夢にも思つてないだろうな」

「日本軍も自棄になつて取り返しに來ているが、もう手遅れだ。知つてるか、日本は若い女だけの部隊を作つて送り込んでるつてよ」

「まじかよ、見た目が良ければ——」
「だな」

2人のASF兵士が、入口に近い所で談笑をしていた。アラビア語だったため内容は分からないが、1人が近付いてくる。彼女はUSP自動拳銃をヒップホルスターに仕舞い、代わりにコンバットナイフを抜く。真つ暗闇を利用し、静かに近付いて死角に引き込む。そして、コンバットナイフで首をかき切った。

「おい、どうした?」

小さな物音に反応した、もう1人のASF兵士がやつてくる。彼女は素早く体勢を立て直し、息を潜める。

「返事くらい——」

躊躇い無く、A S F兵士の首にコンバットナイフを突き刺した。そして、彼が持っていたF A J R—224自動小銃を奪う。

30連P—M A G弾倉を外し、一番上の弾を押しして残弾を確認、そして弾倉を元通りにしっかりと差し込む。槓桿を勢い良く引くと、薬室から1発の5.56×45mm S S 109弾（フルメタルジャケット弾）が弾き出されたが、彼女は放っておいた。

「おい！ 何の音だ!?!」

廊下の角から飛び出してきたA S F兵士に、彼女はF A J R—224自動小銃の銃口を突きつけ、こう言った。

「Freeze（動くな）」

しかし、A S F兵士は手にしたG3A6自動小銃の銃口を上げる。

彼女は、引き金を引いた。

「銃声だ!」

「味方か!?!」

「敵も味方も5.56mmを使ってるんだ! 分かる訳が無いだろう!」

銃声を聞きつけたA S F兵士達とマグマ軍歩兵達が、建物に突入する。

その入口の死角に隠れていた彼女は、足音が遠ざかっていくのを確かめ、外へ飛び出した。

細い路地を進み、南へ向かう。すると、物陰に何かいる気配を察知した。FAJR―224自動小銃の銃床を肩に付け、M2ドットサイトを覗く。ゆつくりと近付くと、それは動いた。

「Don't move!」

「Freeze!」

お互い銃口を突きつけ合う。FAJR―224自動小銃とM4AIMWS自動小銃の銃口は、互いの胴体を向いていた。しかし、M4AIMWS自動小銃の銃口が先に下がり、彼女に銃口を向けていた誰かが口を開いた。

「恵那ちゃん……?」

「未世?」

M4AIMWS自動小銃を携えた朝戸が先導し、FAJR―224自動小銃を持った豊崎が続く。

「そういえば、無線聞いた?」

「いや、聞こえなかった」

「そっか…… どうやらあの『揺れ』、地震じゃないみたいだよ」

「地震じゃない?」

「人工的な爆発、核実験じゃないかって。詳しくは分からないけど」

「核…… 私達がここに来たのって——」

「だとすれば、手遅れだね」

そんな中、航空支援機を護衛するために、CAP (Combat air patrol、戦闘空中哨戒) 中だったフランス空軍所属のラファールC多用途戦闘機達が、突然ロックオンされた。

「周波数解析——F—14か!？」

「だとすればイラン軍のものだ! デュランダルリーダー、エンジン」

ラファールC多用途戦闘機達は増槽を捨て、MICA R F中距離空対空ミサイルを発射した。当然敵機も、AIM—23C セジル中距離空対空ミサイルを発射、双方がチャフを撒いて散開、回避機動を取る。

ラファールC多用途戦闘機に被害は無かったが、敵機編隊の半分が撃墜された。そして、ドッグファイトに突入した。ラファールC多用途戦闘機は可変カナード翼とフライバイワイヤを駆使して旋回、敵機も可変後退翼を一杯広げてフラップを下げてシザース機動へ。

ラファールC多用途戦闘機のFLIR (forward looking infrared、前方赤外線索敵装置) は、敵機のシルエツトを捉える。アメリカ製可変後退翼艦上戦闘機・F-14AM トムキャットに化けた、マグマ軍の艦上戦闘機14号AM型を。

2人は通りを突き進む。角で止まり、朝戸はコータムIIで連絡を取った。

「ベーカー1-2よりニアボアブラザー。テイクアウトは何処だ？」

「ベーカー1-2、朝戸ね？」

「あ、宇都宮さん」

「あ、じゃないでしょう!! まだ見つかってないのはあんたと豊崎だけよ!!」

「恵那も一緒にいます。ただ、コータムが不調らしくて」

「そう……今作戦開始地点にいるわ。20分後、米陸軍のMRAP部隊が救援に来てくれる。くれぐれも遅れるんじゃないわよ？」

「了解。恵那、行くよ」

「分かった」

2人は駆け出した。

13th 不能

「青い空、果てしない水平線、シヤレにならない紫外線量と気温！ お肌ピッチピチのJKが水着姿でキヤツキヤウフフしてるというのに——何で2型迷彩服着てるのよ？」

「俺としては、どうして戦場に水着を持つてくるのかと訊きたいところですけどね」

5月だけど水着回。リア充共の定番イベントですよクソ喰らえ。

ワスプ級強襲揚陸艦（サラトガ）。アメリカから日本へと供与されたこの艦は、国連軍第13機動艦隊（通称・ティアンム艦隊）旗艦、そして即応機械化中隊の母艦としてペルシャ湾に展開していた。ファルジナに展開していた国連軍を襲った「揺れ」から2日、国連軍地上部隊はファルジナから南へ20kmの港町・ムシヤラナまで後退し、即応機械化中隊は後方待機を命じられていた。

「だからって、水着ではしやぐか？」

「彼女達には夏休みなんて無かったんだから、仕方ないじゃない？」

「何気に富士さんも水着持つてきてたんですね」

「アラサーの女がはしやいでて悪かったわね」

「さりげなくチョークスリーパー決めないでください」

〈サラトガ〉飛行甲板後端にて、迷彩服を着てリクライニングチェアに座っていた坂城の首を、真つ黒なビキニを着た富士が締める。

「下で一緒に遊んできたら？」

「そんな年じゃありませんし、男一人ですし。JKの集団に入れるわけが無いじゃないですか」

「固いわね、隊長なのに」

「セクハラやパワハラで訴えられるのを避けてるんです」

「前任者は軟派だったのに」

「一体何をしたんですか土居内一佐は!？」

「何って——習志野のお尻を揉んだり、富山ちゃんと一緒にお風呂入ったり、久居ちゃんを抱き締めたり、富山ちゃんを押し倒したり、補佐役とベッドで状況開始（意味深）」

「どれもアウトじゃないですか!」

「ちなみに本人達の了承はあるわよ」

「ラノベ的主人公じゃないですかヤダー」

「そういうあなたも、私と抱き合っているじゃない?」

「富士さんが俺の首を締めてるだけですよね? 抱き合ってるなんて言いませんよ」

れ」

〈サラトガ〉ウエルドック——

「隊長さん、降りてくる気は無いか」

「姐さん、あんなのを狙ってるんで？」

「違うわよ。でも、親睦を深めたいって思ってる」

海水が引き込まれたウエルドックのスロープに立った、水着姿の守山と春日井が話す。即応機械化中隊の隊員達の多くが、ここで海水浴を楽しんでいた。

「屋根のある場所で海水浴が出来るなんて、贅沢ですよね」

「随分と暗いけどな」

ウエルドックに引き込まれた海水に、浮き輪で浮く久居と富山が話す。周りでは、即応機械化中隊の隊員達のはしゃいでいた。

「あんなに海水を撒き散らして、後で海さんが泣き目を見るぞ」

「あー、後で須恵原1尉が笑顔で『全員、壁洗いな？』って言いそうですね」

「1尉といえば、新しく来た隊長さん、坂城2尉。どー思ってる？」

突然、水面からゴーグルを着けた練馬が浮上してきた。しかし、2人は慣れているように対応した。

「どーもこーもあるか。幹部レンジャー卒の元中即連（中央即応連隊）小隊長、その前はFTC訓練隊（部隊訓練評価隊）、優秀の2文字しか出てこねーよ」

「男としては？」

「不能」

「だよねー……」

14th ざっとこんな感じだ

その後、須恵原1尉のありがたいお言葉により、即応機械化中隊隊員総出でウエルドックの掃除を行い、自由時間となった。

「松戸さん、9mm弾を50発お願いします」

「9mmを50ですか。自主練？」

「はい」

そんな中、朝戸は〈サラトガ〉艦内の弾薬庫に来ていた。ラフなTシャツ姿だが、腰にはG17自動拳銃が収まったヒップホルスターとMK3戦闘ナイフがぶら下がっていた。

そして、松戸が「AK44J 9×19mm訓練弾」と書かれたベージュ色の箱をカウンターに置いた。朝戸はそれを受け取り、松戸にお礼を言って射撃場へ向かった。

ワズプ級強襲揚陸艦〈サラトガ〉は、第二次世界大戦時の如何なる空母よりも巨大な格納庫（正しくは格納甲板）を有する。しかし、〈サラトガ〉の設計想定数よりも少ない航空機しか持たない即応機械化中隊には無用の長物となっていた。

その為、現在では航空機格納庫の半分が潰され、「実験ラボ」やら「シューティングレンジ」やらが作られているのであった。

朝戸はシューティングレンジに入り、プロテクター類を身に着ける。既に何人かが射撃練習をしており、銃声が狭い空間で反響し、共鳴していた。

G17自動拳銃の弾倉に、9×19mmパラベラム弾（訓練弾）をマグローダーで押し込め、左右を区切られたシューティングポイントに立つ。そして、弾倉をG17自動拳銃の銃把に差し込む。

紙で出来た可動台にセット、可動台が徐々に近付いてくるようにセットしてボタンを押した。可動台は一気に20m先まで移動した。

朝戸はG17自動拳銃の遊底を引き、ヒップホルスターに仕舞った。

そして、ブザーが鳴った。

素早く朝戸はヒップホルスターからG17自動拳銃を引き抜き、狙いを定めて引き金を引く。決して弱くない、けれども慣れた反動が右肘を襲い、真鍮製の薬莢が壁に跳ねる。

硝煙煙る銃口を下ろし、的を見る。的に描かれた人影の胴体部分に数発の命中弾、上々だ。

「自主練？」

すると、背後から話し掛けられた。振り返ると、そこには白根がいた。

パーカーにシヨートパンツと飾らない格好だが、腰にはP×4ストームSD自動拳銃が収まったヒップホルスターが吊るされていた。

「まあね。でも、本当私服が地味だね」

「何言ってるの。ここは戦場よ。コーデを考える労力は無い」

「……………」

朝戸は言葉を失う。すると、白根は可動台にセットされた的を交換し、20m先まで移動させた。

「末世の撃ち方はアイソセレス、15m以上には適さない」

「でも、学校ではこれしか習わなかったよ」

「試しに1発撃ってみて」

白根にそう言われ、朝戸はG17自動拳銃を抜いて構えた。狙いを定め、軽い引き金を引いた。

発砲、銃口が若干跳ね上がり、的に当たった。

白根がボタンを押し、可動台が戻ってくる。すると、朝戸が撃った弾丸は的の頭部、それもど真ん中に命中していた。

「おー」

「なるほどな」

すると、白根はまた的を20 m先まで移動させ、P x 4ストームSD自動拳銃を抜き、ウイーバースタンスで構える。

9 x 19 mm パラベレム弾よりも強力な、45ACP弾の衝撃が響き渡り、薬莢が床を跳ねる。

再び可動台が戻ってきた。的の頭部には、朝戸の命中弾を中心に、ニコちゃんマークが弾痕で描かれていた。

「ぎゅっ！とこんな感じだ」

「……………うわぁ」

15th 何でも揃えるのが私のモットーですから

「マツコさん、頼んだのある?」

〈サラトガ〉艦内、購買部にて、坂城2尉がカウンターの前に立っていた。すると、店内から長い茶髪を2つに束ねた美少女が走ってきた。

「坂城2尉の注文は……これですね」

その美少女——購買部所属のマツコ（本名不明）——は、カウンターの中から1つの箱を取り出した。坂城はそれを受け取り、ラベルを確認していると、須恵原1尉がやってきた。

「やあ、お2人さん。まだ明るいのにイチャついて」

「違います」

「何だよ、もうちょいノってくれないのに……で、マツコちゃん、アレは届いているかい?」

「はい、もちろんです」

再び、マツコがカウンターの中から箱を取り出した。

「こちらですね」

「おう、サンキュー」

早速受け取った須惠原1尉に、坂城2尉が尋ねた。

「何です、それ？」

「レンジファインダーだよ。レーザー測距儀とも言うが」

「何でまた？ 我らのミル測距法があるじゃないですか」

「違う違う。目的は、『攻撃がどれくらい外れたか』を測るためさ。支援砲撃頼んで、観測を間違えていたら、いつまで経っても当たらないからな。そういうお前は何頼んだんだ？」

「ナイフですよ。ダガーナイフを買ったんです」

「銃剣があるだろう」

「89式ですか？ 純粋なナイフが欲しかったです。Amazonで注文して、届け

先を『ペルシャ湾 強襲揚陸艦〈サラトガ〉にしたらエラーが出まして』

「俺も同じだ。宛先を岐阜基地にしただろ？」

「ええ。1尉も？」

「ああ。全く、C-2でイヴァク連邦まで運び、そこから補給物資を積んだオスプレイでー丸々3週間だ」

「仕方ないですよ。日本と中東、燃え上がっている真つ最中ですかね」

するとそこへ、福岡がやってきた。

「マツコさん、ムースつてある?」

「ええ。アイス売り場にありますよ」

「おお、流石」

嬉々としてアイス売り場へ向かった福岡の後ろ姿を見て、坂城2尉が口を開いた。

「ムース?」

「九州地方のご当地アイスです。元々は給食用に作られましたが、セブ〇イレブンで全国展開したんです」

坂城2尉の疑問に、マツコが答えた。そして、須恵原1尉が店内を見渡した。

「改めて見ると、色々置いてあるな」

「酒も置かれていますよ。海さんが知ったら激怒もんですよ」

「大丈夫です。海上自衛隊から許可は得ていますし。ティッシュペーパーから避妊具、戦車にデイブークロケットまで何でも揃えるのが私のモットーですから」

「いかがわしい物が2つ聞こえたのは気のせいかな?」

坂城2尉の言葉に、須恵原1尉が真面目な解説をした。

「坂城、避妊具はいかがわしい物じゃないぞ。英空軍のサバイバルキットにも入ってる立派な軍需品だ」

「もうやだこの星……」

16th 戦いは数だよ兄貴

「今度は夜襲ですか」

「仕方無いだろ。こっちは一旦撤退し、向こうは戦力を整えたんだ。正攻法以外は無理だ」

夜、ファルジナ南の砂丘に即応機械化中隊は隠れていた。

「既に民間人への退避勧告は行われた。10分後、EA-18Gと共にF-16とA-10が空爆を行う。その後、戦車隊と一緒に突入する。エーブルが先行、ベイカーは戦車隊と共に進め」

須恵原1尉の指示に、全員が頷いた。

「よし、時刻規正を行う。10秒前、8、7、6、5、4、3、2、1、今！」

0200時、アメリカ空軍のF-16CM多用途戦闘機と韓国空軍のKF-16多用途戦闘機がファルジナへと低空侵攻、急上昇して500ポンド L-JDAMレーザー／GPS誘導爆弾をトス爆撃の容量で投下、MQ-9多用途無人機が誘導してマグマ軍の地对空ミサイルや対空戦車を破壊した。

すぐにA-10C対地攻撃機が襲来、AGM-65G2 マーベリック空対地ミサイルを放って装甲車両を撃破した。

もちろん、敵も黙っていない。重機関銃や機関砲、歩兵携行型地对空ミサイルで反撃する。A-10C対地攻撃機はフレアを撒き、ミサイルを躲す。

そして、日米韓連合部隊がファルジナに突入した。K21歩兵戦闘車やM2A3歩兵戦闘車の機関砲が唸り、マグマ軍歩兵やASF兵士達をミンチにしていく。そして、自動小銃を手にした兵士達が建物へと突入していく。

しかしそこへ、2機の戦場戦闘機29号A型が低空侵攻してきた。

「撃ち落とせー」

K21歩兵戦闘車の40mm XK40機関砲や89式装甲戦闘車の35mm KE機関砲が弾幕を張る。が、亜音速で飛ぶジェット戦闘機には当たらない。

そして、主翼に2本ずつ下げたポッドを投下した。

投下された4本のポッドは空中で分解、大量の小型ドローンをばら撒く。それらのドローンは、画像認識で人間を識別、その頭目掛けて特攻する。そして――

「あでっ」

多国籍軍兵士達のヘルメットに命中、粉々になったとき。

CAS待機中だったF-15E戦闘爆撃機の編隊は、E-8C地上管制機からの情報

を受けて迎撃に向かう。戦場戦闘機29号A型をロックオン、マスターアームスイッチは「ON」になっている。

「FOX3!」

AIM-120C アムラーム中距離空対空ミサイルとR-73A アーチャー短距離空対空ミサイルが放たれる。F-15E戦闘爆撃機は爆弾と増槽を切り捨て、フレアを撒いて回避機動に移り、戦場戦闘機29号A型もチャフを撒く。しかし、双方のミサイルが命中してしまった。F-15E戦闘爆撃機の左エンジンから火が吹き出し、戦場戦闘機29号A型の右主翼が吹き飛んだ。

激しい銃撃の中、エーブル小隊は進む。全員、頭には88式鉄帽とJGVSV-8夜間暗視装置が装着されており、一部の隊員は89式5.56mm小銃の銃身に赤外線レーザーサイトを取り付けていた。

エーブル2分隊が6階建てのビルに突入、一気に制圧する。トラップに気を付けながら1階ずつクリアリングをする。そして、屋上へとエーブル2-1が登り、相馬原がMINIMI軽機関銃の二脚を広げて角を陣取った。スコープを覗き、眼下の通りへ掃射を行った。

マグマ軍やASFも反撃し、激しい応酬となる。ありつただけの機関銃や自動小銃が弾

幕を張り、その銃声が共鳴し、反響した。

「弾あ持つてこーい！」

背負っていた戦闘背囊を屋上に転がし、その中から新しい弾薬箱を取り出す相馬原が叫んだ。すると、新発田が返す。

「未咲さん撃ち過ぎです！」

「何言ってるんだ！ 戦いは数だよ兄貴！」

「兄貴って何ですか!?!」

「ガ○ダムネタ入れないでくださいよ」

豊川が突っ込む。すると、クローラの音が響いた。

「戦車だ！」

それは、重戦車90号だった。すぐに新町が87式対戦車誘導弾（中MAT）を構え、レーザーを照射した。しかし、重戦車90号に搭載されたシュトローラAPS（Active Protection System、アクティブ防護システム）が作動、対赤外線煙幕弾を発射した。

「空軍の連中、戦車を残していきやがった！」

富山が愚痴る。すると、朝霞が返した。

「CASで全部殺れはしないでしょ」

「最後は歩兵の仕事、つてか？」

富山が悪態をつく。すると、先程の重戦車90號が曲がり角から出てきた。砲塔が旋回、125mm 2A46M—1滑腔戦車砲と12.7mm kord6P51重機関銃がエーブル2—2の4人を狙った。

「畜生、こつち来やがった！」

「皆、逃げるよ！」

「承知した！」

「あーもーついてない！」

4人は走って逃げ、近くのビルへと練馬、朝霞、多賀城の順に飛び込んだ。そして、富山が滑り込もうとした時に、125mm HEAT—MP（多目的対戦車成形炸薬榴弾）が発射された。

17th 一昨日来やがれってんだ

朝霞は立ち上がり、89式5.56mm小銃の被筒に装着したAN/PEQ-116多用途照準デバイスのLEDライトをつけて辺りを照らした。

「皆、大丈夫？」

「頭がガンガン鳴ってるけどね」

「問題無い。刀も折れてないしな」

「ひみ子さんは？」

「生きてるよ。あと一歩遅けりゃ、焼け死んでたか、潰れ死んでたな」

富山は立ち上がり、89式5.56mm小銃を持ち上げた。今4人は、入口が崩壊したビルの1階にいた。朝霞はチェストリグの肩紐部分にあるケースからコータムIIを取り出し、現在地を確認した。

「とりあえず、外に出しましょう。練馬、先頭に立つて。直葉さんはしんがりを」

『了解』

軽装甲機動車の銃座に設置された74式7.62mm車載機関銃が弾幕を張り、敵の

応射が止んだ隙に前進、突入する。竹松がM870ブリーチャー手動散弾銃でドアノブを破壊、一気に踏み込む。明野と座間が64式7.62mm小銃でマグマ軍歩兵を撃ち殺し、ライトで安全を確認した。

「確認！」

「クリアー！」

「クリアー！」

「次行くぞ！」

下志津が叫び、移動を再開した。

裏口を見つけ、エーブル2―2分隊はビルを出た。しかし、そこをちようど重戦車90号を通っていった。4人は驚くが、向こうはこちらに気付いてない。

朝霞はハンドサインで「対戦車兵器」と指示し、富山は背負っていた110mm個人携帯対戦車弾(LAM)を手にとった。床尾板(バットプレート)、銃把(グリップ)、バリエイカルフォアグリップを展開、弾頭ブローブを伸ばして対戦車モードへ。セレクターを「S」から「F」へと下げ、多賀城が後方を確認、富山の88式鉄帽を叩いた。富山はスコープを覗き、重戦車90号のエンジンを狙う。そして、引き金を引いた。

火薬に引火、巨大なロケット弾が約165m/sで撃ち出され、後方へと金属粉のカ

ウンターマスが噴き出した。ロケット弾は空中でロケットブースターが点火、約250m/sまで加速した。

そしてロケット弾は、重戦車90號のエンジンに命中、弾頭が起爆し、成型炸薬のモンロー／ノイマン効果でエンジンを破壊した。

「どうだ！　一昨日来やがれってんだ！」

発射チューブからスコープを取り外しながら、富山は叫んだ。しかし、砲塔上部の12.7mm Kord重機関銃が旋回した。

「クソがあー！」

富山が声を張り上げ、朝霞は目を見開き、練馬の顔が青ざめ、多賀城は短刀へ白之紫に手を掛ける。

しかし、直後に12.7mm Kord重機関銃が破壊された。

18th バビロン計画

「ヒット」

「600m先のマシンガンのバレルをへし折ったんだ。どーよ？」

「普通」

「ちえっ」

廃墟の床に伏せていた蒼髪の少女は、構えていたTRG―42対人狙撃銃を持ち上げ、MP9短機関銃の折曲銃床を展開、TRG―42対人狙撃銃を背負った。そして、隣で伏せて単眼鏡を覗いていた、青藤髪の少女は脇に置いていたモシナガンM28手動小銃を背負い、GG―95PDW短機関銃の槓杆を引いた。

「助かった……のか？」

110mm個人携帯対戦車弾(LAM)の発射筒を捨てながら、富山は呟いた。

「恐らくな」

多賀城が返す。そして、朝霞は指示を出した。

「本隊に遅れてる。急ぐわよ」

その本隊より後方2kmに位置する軽装甲機動車(LAV)の後部座席で、坂城2尉はTOUGHBLOCK戦術情報端末の画面を見て唸っていた。

「敵戦車隊に抑え込まれているようです」

隣の高田が、次々と送られてくる情報を整理しながら坂城2尉に報告する。

「攻撃へりを要請したいが、まだSAM(地对空ミサイル)があるからなあ……」

「上の連中が攻撃へりを減らそうという理由が、ここで証明されるとはね」

運転席の富士が、周りを警戒しながら呟いた。

三田がM870MCS手動散弾銃でドアノブを撃ち飛ばし、宇都宮が蹴り開ける。そして、朝戸と豊崎が突入した。マグマ軍歩兵がAK-74自動小銃を構えるが、それより早くM4A1MWS自動小銃と89式5.56mm小銃が89式5.56×45mm普通弾(フルメタルジャケット弾)を素早い単射でばらまいた。

「クリアー！」

「クリアー！」

2人は銃口を下ろす。部屋に宇都宮と三田が入ると、宇都宮が床に落ちている物を拾い上げた。

「何です、それ？」

朝戸が、宇都宮が拾い上げた物を覗き込む。

「メモ用紙ね。……『バビロン砲』？ 何で日本語が？」

そこには、日本語で「バビロン砲 スカッド利用で最大射程1万km（理論値）」と書かれていた。

「一体何なんでしょうか？」

「私に訊かないでよ。でも、スカッドって——」

「ソ連製の短距離弾道ミサイルですね」

宇都宮の言葉に、豊崎が重ねた。

「ミサイルを砲で発射って事？ ロシア戦車じゃあるまいし——」

そう言い掛けた朝戸に対し、三田が口を開いた。

『『バビロン計画』、聞いた事がある。確か、イラン・イラク戦争の時にイランが計画した、スカッドミサイルをより遠くへ飛ばす多薬室砲の計画』

「よく知ってるわね……」

宇都宮がそう言うと、三田は応えた。

「前に読んだオカルト本に書いてあった」

『……………』

3人は、反応に困った。

19th 高濃縮プルトニウム

やがて、夜が明け始めた。マグマ軍とASFは次第に統率が取れなくなり、徐々に多国籍軍に押されていく。

「報告、我が部隊の被害は軽微です」

「軽微……具体的に？」

「軽傷2名のみです」

「了解、手当と補給を急げ」

「了解しました」

坂城の指示で、高田はコータムで部隊に指示を出す。そして、富士が口を開いた。

「まずまずといった所かしら？」

「ええ。元より、MOU Tっていうのは奇襲と待ち伏せの繰り返し。上手くいけば被害は少ないが、失敗すれば部隊は壊滅する。そんなもんです」

「FTCの教訓、かしら？」

「ええ。野戦なら負け無しだったんですが」

朝霞達エーブル2―2は、ビルの屋上から日の出を見ていた。

「西アジアの夜明け、か……」

「結局徹夜じゃない。これだったらアニメ見る方が有意義だわ」

「戦争ほど無意義な物はない、と思うが？」

「だけど、戦わねば殺されるんだ。意義なんて関係無えよ」

「ひみ子ちゃん、ちよつとタバコ吸ってみ？ めっちゃ似合うよ」

「吸わねーし、持ってねーよ！」

「そういえば、即機中に喫煙者はいないな」

「あー、確かに」

「一般社会でも吸ってる人減ってるらしいし、時代なのかもね」

一方、エーブル1―2の4人は通りを警戒していた。

「クリアしたのか、にや？」

「その『にや』を止めろ」

「えー」

対馬が頬を膨らみますが、習志野は放った。

「ここも、かつては平和な日常が送られていたのでしょうか？」

国分が、足元に転がっていたクマのぬいぐるみを見ながら呟いた。

「戦争というのは、この世で最大の悲劇であり、悲劇よりも酷いものだ。一番質が悪いのは、ノンフィクションであるという事だ」

「習志野さん、それ何処の引用です？」

「鋭いな。何処だったか忘れたが」

「Was it successful (で、成功したの)?」

「Of course (勿論です)。If there is enough hydrogen, it will blow away the most essential the world cleanly (あれだけの量の高濃縮プルトニウムがあれば、世界十大都市を綺麗に吹っ飛ばせますよ)。Most likely, the site will become dirty (最も、跡地は汚くなりますが)。」

「How many did you leave (何発出来たの)?」

「Currently, it is only one shot (現状では、まだ1発だけです)。However, we are already in mass

production (しかし、もう既に量産体制に入っています)。Asural
is leaving nuclear related facilities
without giving way to American pressure,
everything is good (アスラールが、アメリカの圧力に屈せ
ず核関連施設を残してくれて、万々歳ですよ)。」

「With this, I can finally crush Japan (これ
で、ようやく日本を潰せるわ)。」

「……Why do you hate your home country so
much (どうして、そんなに母国を憎んでいるのですか)?」

「Do you want to be shot dead (撃ち殺されたい)?」

「No, there is no ruin (いえ、滅相ありません)!!」

「Well, do not look into the past (じゃ、過去を詮
索しない事ね)。」

そう言つて、女はM715回転拳銃の撃鉄を元に戻し、ホルスターに戻した。そして、
歩き出した。

しかし一方の白衣の男は、小さく呟いた。

「……Einen Schrittt machen (調子に乗りやがって)。」